

令和3年度  
教育委員会の事務の管理及び  
執行状況の点検及び評価報告書  
(令和2年度事業)

令和3年9月

日野市教育委員会

# 目 次

I	はじめに	1
II	点検・評価の基本方針	1
1	目的	1
2	点検・評価の対象	1
3	点検・評価の実施方法	1
III	教育委員会の活動状況の点検・評価について	2
1	教育委員会の組織	2
2	活動状況の概要	2
3	点検・評価	2
4	学識経験者の意見	3
	令和2年度 教育委員会活動状況	7
(1)	構成	7
(2)	定例会・臨時会	7
(3)	日野市総合教育会議	1 1
(4)	教育委員会施策研究会等	1 1
(5)	市長と教育委員との意見交換会	1 3
(6)	校長会と教育委員との意見交換会	1 3
(7)	教育委員の学校訪問	1 4
(8)	教育委員の研究発表会への出席	1 5
(9)	教育委員の視察研修・連絡会等	1 6
(10)	教育委員の関係行事への出席	1 7
(11)	教育委員として就任している他の組織の委員等	1 7
IV	主要な取り組みの執行状況の点検・評価について	1 8
1	教育委員会の主要な取り組み及び評価対象	1 8
	日野市教育委員会学校教育部門の主要な取り組み(令和2年度)	1 9
	日野市教育委員会生涯学習部門の主要な取り組み(令和2年度)	2 0
	評価対象事業一覧	2 1
2	点検・評価	2 2
3	学識経験者の意見	2 2
4	個別事業の評価	3 9
	(資料)	
	・日野市教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検及び評価実施要綱	
	・学びと育ちの日野ビジョン(日野市総合教育大綱)	

# I はじめに

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（以下、「地教行法」という。）では、『教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しなければならない』とされている。

この報告書は、同法の規定に基づき、日野市教育委員会が行った点検・評価の結果をまとめたものである。

## II 点検・評価の基本方針

### 1 目的

- (1) 施策及び事務事業の取り組み状況について、点検及び評価を行い、課題や取り組みの方向性を明らかにすることにより、効果的で、市民に信頼される教育行政を推進していく。
- (2) 点検及び評価の結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに市民に公表することにより、市民に対する説明責任を果たしていく。

### 2 点検・評価の対象

点検・評価の対象は、令和2年度の教育委員会の活動及び令和2年度の主要な取り組みとした。

### 3 点検・評価の実施方法

点検・評価を行うに当たっては、その客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する次の2名の方からご意見をいただいた。

山口 仁一 (ヤマグチロボット研究所代表)  
蟹江 杏 (画家)

### Ⅲ 教育委員会の活動状況の点検・評価について

#### 1 教育委員会の組織

教育委員会は、政治的中立性を確保し地域の実情に合った教育行政を行うことを目的として「地教行法」により設置される合議制の執行機関で、教育長及び4人の委員とで構成される。

委員は、市長の被選挙権を有する者で、人格が高潔で、教育、学術及び文化に関し識見を有するものの中から、市長が市議会の同意を得て任命し、任期は4年である。

教育長は、市長の被選挙権を有する者で、人格が高潔で、教育行政に関し識見を有するものの中から市長が議会の同意を得て任命し、任期は3年である。

#### 2 活動状況の概要

教育委員会では、毎月1回定例会を開催し教育に関する議案、協議事項、報告事項等を審議している。また必要に応じて、臨時会を開催している。

令和2年度は、定例会を12回、臨時会を7回開催し、議案61件、協議事項9件、請願審査3件、報告事項25件について審議等を行った。

また改正「地教行法」の規定により「日野市総合教育会議」が開催され、令和2年7月14日の会議において「大綱の実現に向けた市の取組について」について討議された。

このほか、定期的に教育委員会施策研究会を実施するとともに、市長及び校長会との意見交換会、学校訪問や学校の研究発表会、視察研修、生涯学習関連行事等に参加した。

※詳細は、7ページ「令和2年度教育委員会活動状況」を参照

#### 3 点検・評価

教育委員会の活動状況に関して点検した結果、「地教行法」の主旨に則り適正な組織運営を行ってきたと考える。

定例会では、令和2年度（2020年度）の主要な取り組みの策定等、教育行政の基本方針を決定した。

このほか、市長との意見交換会で教育委員会の施策や予算に関して、市長部局と調整を図るとともに、校長会との意見交換会で活発に議論を行い、学校との更なる連携を進めた。

また、各事業、式典等に参加することにより現場の状況や実態の把握に努めた。

#### 4 学識経験者の意見

##### (1) ヤマグチロボット研究所代表 山口 仁一

教育委員会の担当者等から説明を受け、その後、質問をさせていただき、活動状況について総合的に評価をさせていただきました。評価は、(A) 非常に良い、(B) 良い、(C) やや良い、(D) やや悪い、(E) 悪い、の5段階としました。

令和2年度教育委員会は、教育長1名、教育長職務代理人1名、委員3名の計5名の構成で、例年と同人数で対応されています。

定例会は、毎月1回の頻度で計12回、臨時会は、令和2年4月に1回、5月に2回、令和3年1月と2月に1回、3月に2回開催され、計7回（昨年度比+6）、議案61件（昨年度比+1）、協議事項9件（昨年度比+5）、請願審査3件（昨年度比-10）、報告事項25件（昨年度比-1）と、非常に多くの事項について審議がなされています。全7回開催の臨時会は、すべて緊急事態宣言や蔓延防止措置の発令に向けて教育活動の指針を協議するための開催で、市としてこれまで全く前例の無いことに迅速に対応する必要があり、大変ご苦勞があったものと考えます。開催場所についても事務局の出席数を制限したうえで、広い会場を確保、もしくは、傍聴室兼事務局待機室として別室を設け、部屋を2つに分けて会議を行い、別室の会議の様子を投影するためにZ o o mを使用し、感染拡大防止に努められたとのこと。そのような状況の中でも中学校の教科書用図書の選定では、教育委員は、7月21日、27日、30日の計3日間、各教科の委員長の出席のもと、審議会の答申書に基づいた説明を受け、それに続いて、8月3日、5日、8日、10日、12日の計5日間にわたって、教育委員は全ての教科用図書について調査研究を行い、定例会当日の審議時間は4時間35分（休憩含む）にも及んだとのこと。コロナ禍の中でも極めて力を入れて取り組まれています。

7月には、日野市総合教育会議が、市長の召集により開催されています。議事録、資料等を確認しますと、平成27年に策定された「学びと育ちの日野ビジョン」の6つの柱ごとの各事業に対して、昨年度との比較で追加となった事業を示すとともに、今回のコロナ禍における学校の対応として「新しい学びの創造」について、市長および担当課から説明がなされ、各委員と意見交換がなされています。例えば、前者については、コロナ禍での大きな環境変化に対応すべく課題の切り替えや見直しの必要性について、後者については、コロナ禍への対応、例えば、分散登校、インタラクティブスタディ等により、これまで登校できなかった児童・生徒が学校に通えるようになったことについて、とても活発に議論されています。

教育委員会施策研究会は定例会と同日が12回、他の日が1回の計13回開催され、施策課題に対する研究や情報交換が多くなされています。私からは、新型コロナウイルス関連、ほっとも、つまずき解消プロジェクト、そして昨年度に引き続き、G I G Aスクールについて、特に目を引かれました。

教育委員会は、例年と同様、市長、そして校長会と意見交換会を実施しています。具体的な内容や状況について確認させていただいたところ、市長とは対面で、次年度の予算要望について、そして総合教育会議の在り方について、大綱の見直し時期や方法、会議の開催方法（オブザーバ等の出席、パネルディスカッションの導入）等についての意見交換が、校長会とは対面で、日野流の学び・新しい学びについて、教育委員1名と校長5人、事務局1人でグループごとに話し合い、その結果について各グループが発表を行うことで、活発に意見交換がなされたとのことです。一方、例年実施されている日野市小中学校PTA協議会との懇談会は、コロナ禍のため、中止にされたとのことです。オンラインで、代替りの会を開催できなかったことは、残念に感じました。

教育委員の学校訪問は、コロナ禍の中でも昨年度と同数の10回を確保され、実態把握に努められました。

研究発表会への出席は1回で、昨年度より2回も減っていますが、コロナ禍の影響で集まることが叶わず、オンライン開催もできなかったため、1回に減ったとのことです。私が所属しているロボット関連や知財関連の学会では、いつもの対面よりもオンラインの方が、参加の人数もずっと多く、より活発に討論が行われている研究会も多いので、少し残念に感じました。

視察研修等への出席は3回で、全てオンラインでの開催とのことでした。昨年度より3回も減っていますが、これは、例年参加している研修会が延期等になったためとのことです。令和3年1月22日に開催された令和2年度東京都市町村教育委員会連合会第2ブロック研修会では、日野市が企画を担当し、「子どもたちが世界を変える～アウトプットの大切さ」を主題として、3件の発表をオンラインで行っています。他自治体からは感心する意見が寄せられたとのことです。

関係行事への出席で、実際に現地へ赴いたものは、14回となっており、昨年度比一35回と大幅に減っていますが、これも新型コロナウイルス感染症拡大により、多くの行事が中止または出席人数の制限をすることとなり、出席が叶わなかったためとのことです。そのため、学校等が録画した映像を見るなどして、状況把握に努められています。

以上のように、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で感染症拡大防止対策を行いながら活動をしなければならないという、非常に活動が難しい年度となりましたが、委員の方々および関係各所は、IT技術等を駆使して一丸となり、新型コロナウイルス感染症のクラスターの発生等を起こすことなく、定例会をはじめとする教育委員会の活動を継続して取り組まれました。よって、評価としては、(A)非常に良い、と考えます。

## (2) 画家 蟹江 杏

2021年も、昨年に引き続きコロナ禍であり、世界中の人々ももちろんですが、教育の現場に携わる方々にとっては苦渋の決断をしなければならない場面が沢山あったのではないかと思います。

けれど、令和2年度の日野市教育委員会の執行状況の報告を受けて、状況を逆手に取り、市民や子ども達と一緒に新たな挑戦をしている皆さんの姿が目には浮かびました。

「ウイルスや災害は私達がしてきた悪事を自然が怒って警告してるんだよ」と、月並みと言ってしまうかもしれませんが、自業自得と言われようが、100年前の先祖を恨もうが、私達は人間だもの、足掻き続けることしかできません。

けれど、100年先を生きる子ども達ももっと何かとてつもないことに襲われてしまう事があった時に、世代もジェンダーも障害も乗り越えてフラットに皆で英知を出し合い、協力して立ち向かい乗り越えていく事が大切なのだとしたら、それは、今の私達の社会への関わり方にかかっているに違いありません。

特に教育は間違いなく一番大切な分野なのでしょう。

100年先って聞けば、ずいぶんと未来のお話に聞こえますが、今、目の前にいる子どもが、おばあちゃんやおじいちゃんになり「幸せな人生だったな」と思って老後暮らしてるかどうか、ってことですから、そう先のことではないのです。

「100年先を生きる人」に私達はすでに出会っています。

今回の報告を受け、日野市教育委員会は教員をはじめ、地域の方々、私達市民が、子ども達への眼差しを向け続けることを啓発し、社会の変換期である時期をお互いで認識しあいながら新しい考えや方法を取り入れようとしているのだなと感じました。

口に出すのは簡単ですが、実際、最前線にいる皆さんは大変なことだろうと思います。そして勇気のいることですね。

経験が増えるほどに囚われが多くなり、自由度が低くなるのが人間の特徴と言えるので、足並みを揃えるのはとても苦勞があることだと思います。

だから、私達人間がすぐに規則などを創ってしまうことにも現れていると言えるでしょう。

表面的な問題解決のために安易な規制を作ってしまうのは、人間界の進化のようで実は退化の証だ、と最近思うのですが、不安な時ほど陥ってしまいがちだと拙い経験から感じます。

とても大変なことですが、完璧など、この世の中には存在しないと思い挑戦していくしかないのかもしれない。

釈迦に説法ですが、特別支援教育の分野で「困った子どもは、困っている子ども」と言われます。それは子どもだけではなく、あらゆる人がそうなっているのが今の社会状況なのではないでしょうか。

完璧な教員はいないし、完璧な市民もいない、完璧な家族もない。

そもそも完璧という概念自体が一種の難題だとも思います。

なのに、家庭にも、学校教育にも完璧主義に依拠した大きなプレッシャーがかかる状況下にあるとしたら、それを取り除く事をするこそが大切だなと思いました。

これから近い将来、コロナの流行のように予測不能な自体が起これば起こるほど、きっと「教育」の重要さがクローズアップされ、よくも悪くも教育委員会ははじめ皆さんが矢面に立つことが多くなる気がします。

けれど、どんな時でも、100年先の子ども達を想像して、ブレる事なくおおらかな優しい気持ちで望んで頂けたらと願っています。



## 令和2年度 教育委員会活動状況

### (1) 構成

職名	氏名	委員初任年月日	任期
教育長	米田裕治	平成22年8月3日	平成30年8月3日～令和3年8月2日
教育長職務代理者	高木健夫	平成23年6月28日	令和2年6月28日～令和6年6月27日
委員	西田敦子	平成22年12月4日	平成30年12月4日～令和4年12月3日
委員	真野広	平成29年9月30日	平成29年9月30日～令和3年9月29日
委員	東桜子	令和元年10月1日	令和元年10月2日～令和5年10月1日

### (2) 定例会・臨時会

毎月1回定例会を開催し、議案、協議、報告事項等、教育に関する事項を審議した。

令和2年度は、定例会を12回、臨時会を7回開催し、議案61件、協議事項9件、請願審査3件、報告事項25件について審議等を行った。

	区分	件数	主な案件	傍聴者数
第1回臨時会 令和2年4月3日開催	議案	1	新型コロナウイルス感染症に伴う市立小学校、市立中学校、市立幼稚園の臨時休業について	0
第1回定例会 令和2年4月9日開催	議案	10	日野市教育委員会会議規則の一部を改正する規則の制定について、教育委員会職員人事の専決処分について、日野市立学校の管理運営に関する規則の一部改正の専決処分について、東光寺小学校学校運営協議会委員の任命の専決処分について、平山小学校学校運営協議会委員の任命の専決処分について、第9期日野市立教育センター運営審議会委員の任命の専決処分について、第32期日野市社会教育委員の委嘱について、第29期日野市立図書館協議会委員の任命について、日野市立学校長の措置について、緊急事態宣言期間における市立小学校、市立中学校の子どもの居場所等の方針の専決処分について	0
	報告事項	4	令和2年第1回日野市議会定例会の報告、令和元年度就学援助申請者数及び認定者数、行政情報の公開請求、日野市教育委員会後援等名義使用実績報告(令和元年10月～令和2年3月)	
第2回臨時会 令和2年5月6日開催	協議事項	1	新型コロナウイルス感染症に伴う市立小学校、市立中学校、市立幼稚園の臨時休業の延長について	0
第2回定例会 令和2年5月14日開催	議案	3	新型コロナウイルス感染症に伴う市立小学校、市立中学校、市立幼稚園の臨時休業の延長の専決処分について、令和2年度日野市教育委員会評価委員の委嘱について、教育委員会職員人事の専決処分について	0
	報告事項	1	令和2年度「選べる学校制度」実施状況	

	区分	件数	主な案件	傍聴者数
第3回臨時会 令和2年5月24日開催	協議事項	1	新型コロナウイルス感染症に伴う緊急事態宣言解除後の市立小学校、市立中学校、市立幼稚園の教育活動等について	0
第3回定例会 令和2年6月11日開催	議案	6	新型コロナウイルス感染症に伴う緊急事態宣言解除後の市立小学校、市立中学校、市立幼稚園の教育活動等の専決処分について、日野市立学校の管理運営に関する規則の一部を改正する規則の制定について、平山小学校学校運営協議会委員の任命の専決処分について、第31期日野市文化財保護審議会委員の委嘱について、第28期日野市公民館運営審議会委員の委嘱について 他	1
	報告事項	1	令和2年第1回日野市議会臨時会の報告	
第4回定例会 令和2年7月9日開催	議案	2	教育委員会職員人事の専決処分について、第29期日野市立図書館協議会委員の任命の専決処分について	0
	報告事項	3	令和2年第2回日野市議会定例会の報告、要綱の制定及び改廃の報告(令和2年4月～令和2年6月)、行政情報の公開請求	
第5回定例会 令和2年8月13日開催	議案	7	日野市立中学校教科用図書の採択について、日野市立小学校教科用図書の採択について、日野市立小・中学校特別支援学級教科用図書の採択について、東光寺小学校学校運営協議会委員の任命の専決処分について 他	28
	協議事項	1	日野市立中学校教科用図書の選定について	
第6回定例会 令和2年9月10日開催	議案	1	令和2年度教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書(令和元年度事業)について	2
	請願審査	1	集団的自衛権・交戦権等まで「自由・権利の記述箇所数」にカウントする、反学問的な都教委作成『中学校教科書調査研究資料』(貴教委の米田裕治氏も深く関与している)の、公民の“調査・研究”の在り方を抜本的に是正させるよう求める請願	
	報告事項	4	行政情報の公開請求、令和2年度日野市中央公民館の運営の状況に関する評価書(令和元年度事業)、令和2年度日野市立図書館の運営の状況に関する評価書(令和元年度事業)、令和2年度日野市郷土資料館の運営の状況に関する評価書(令和元年度事業)	

	区分	件数	主な案件	傍聴者数
第7回定例会 令和2年10月8日開催	議案	2	教育委員会職員人事の専決処分について 他	0
	協議事項	1	日野市立八ヶ岳高原大成荘の廃止について	
	報告事項	5	令和2年第3回日野市議会定例会の報告、令和2年度就学援助申請者数及び認定者数(令和2年4月～令和2年6月)、令和2年度日野市高校生奨学金の申請者数及び決定者数、要綱の制定及び改廃の報告(令和2年7月～9月)、日野市教育委員会後援等名義使用実績報告(令和2年4月～令和2年9月)	
第8回定例会 令和2年11月12日開催	議案	2	日野市立八ヶ岳高原大成荘設置条例を廃止する条例の制定について 他	0
	報告事項	3	令和2年第2回日野市議会臨時会の報告、行政情報の公開請求、令和3年度入学「選べる学校制度」希望調査集計結果(小・中学校)について	
第9回定例会 令和2年12月10日開催	議案	3	教育委員会職員人事について 他	0
	報告事項	1	令和2年度コロナ禍における事務局の取り組みについて	
第4回臨時会 令和3年1月7日開催	協議事項	1	緊急事態宣言期間における市立幼稚園・小学校・中学校の教育活動について	0
第10回定例会 令和3年1月14日開催	議案	1	教育委員会職員の分限休職の専決処分について	0
	協議事項	1	持続可能な地域社会づくりの強化に向けた組織体制について	
	報告事項	2	令和2年第4回日野市議会定例会の報告、「緊急事態宣言期間における市立幼稚園・小学校・中学校の教育活動」の発出について	
第5回臨時会 令和3年2月2日開催	協議事項	1	緊急事態宣言期間延長における市立幼稚園・小学校・中学校の教育活動について	0
第11回定例会 令和3年2月8日開催	議案	9	持続可能な地域社会づくりの強化に向けた組織体制について、日野市要保護及び準要保護児童生徒援助費支給要綱の一部を改正する要綱の制定について、日野市特別支援教育就学奨励費支給要綱の一部を改正する要綱の制定について、日野市立学校の学校医の解嘱及び委嘱について、日野市立学校の学校医等の委嘱の専決処分について、日野市立八ヶ岳高原大成荘設置条例施行規則を廃止する規則の制定について、ロケーション活動に使用する日野市教育委員会が所管する施設の使用料に関する規則の一部を改正する規則の制定について	0
	請願審査	2	かけ算の文章題において、式の順序を固定するか否かの見解を、その理由とともに誰でも見える形で公開してほしいに関する請願、夢が丘小学校の児童保護者教員への健康配慮に対する請願	
第6回臨時会 令和3年3月4日開催	協議事項	1	緊急事態宣言期間の更なる延長における市立幼稚園・小学校・中学校の教育活動について	0
第7回臨時会 令和3年3月18日開催	協議事項	1	緊急事態宣言解除後の市立幼稚園・小学校・中学校の教育活動等について	0

	区分	件数	主な案件	傍聴者数
第12回定例会 令和3年3月29日開催	議案	14	令和3年度(2021年度)の主要な取り組みにの策定について、教育委員会職員人事について、日野市教育委員会事務局処務規則の一部を改正する規則の制定について、日野市郷土資料館処務規則の一部を改正する規則の制定について、日野市教育委員会公印規程の一部を改正する規則の制定について、日野市郷土資料館条例施行規則の一部を改正する規則の制定について、日野市教育委員会事務局事務決裁規程の全部を改正する規則の制定について、日野市立教育センター設置条例施行規則の一部を改正する規則の制定について、東光寺小学校学校運営協議会委員の任命について、今後の水泳指導のあり方に関する方針について、日野市立教育センター所長の任命について 他	0
	報告事項	1	「緊急事態宣言解除後の市立幼稚園・小学校・中学校の教育活動について」の発出について	

(3) 日野市総合教育会議

平成27年4月1日に施行された改正「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき、「学びと育ちの日野ビジョン(日野市教育大綱)」が、平成28年2月24日に策定された。

令和2年度の第1回日野市総合教育会議は、市長の召集により、7月14日(火)に開催された。議題は「大綱の実現に向けた市の取り組みについて」「新しい学びの創造」で、市長部局、教育委員会の中でどのような取り組みが行われているかの調査資料を基に、代表的な取り組み事例が報告された。

教育委員会からは、「日野市未来に向けた学びと育ちの基本構想(第3次学校教育基本構想)への取り組み」が紹介され、教育委員と理事者の間で活発な意見交換が行われた。

議題	主な内容
議題第1号	大綱の実現に向けた市の取組について
議題第2号	新しい学びの創造

※議事録、資料等 ホームページで公開

(4) 教育委員会施策研究会等

施策課題に対する研究や教育委員の情報交換のため、実施した。

実施日	主な研究課題・情報交換等の内容
令和2年4月9日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年度の教育委員会基本方針について</li> <li>・令和2年度日野市立小・中学校研究奨励校について</li> <li>・新型コロナウイルス感染拡大に伴う対応状況について(学校、施設など)</li> <li>・令和2年度日野市教育委員会評価(令和元年度事業)の評価委員について</li> <li>・成人式の今後の方向性について</li> </ul>
令和2年5月14日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症に伴う動きについて</li> <li>・総合教育会議の議題について</li> <li>・ほっともの状況について</li> </ul>
令和2年6月11日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンライン学習の現状(ハード・ソフト)、保護者向けのアンケートの報告・説明</li> <li>・緊急事態宣言解除後の教育機関の対応</li> <li>・教科書採択について</li> <li>・校長会と教育委員との意見交換会(8月27日)でのテーマについて</li> <li>・総合教育会議(7月14日)について</li> <li>・わくわく、総合、対話など各プロジェクトの進捗状況報告</li> <li>・ひのっ子教育臨時号について</li> <li>・障害のある子供たちとコロナ「公民館運営審議会委員の話」</li> </ul>
令和2年7月9日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合教育会議について</li> <li>・校長会との意見交換会のテーマについて</li> <li>・エールの令和元年度活動報告書、つまづき解消プロジェクト</li> <li>・今年度の教育課程について</li> <li>・今年度の主な行事について</li> <li>・学校支援の動きについて(放課後支援)</li> <li>・教育機関3館の再開後(6・7月)の状況</li> <li>・子ども・保護者・地域・学校・教育委員会の対話について</li> <li>・令和2年度東京都市町村教育委員連合会ブロック別研修について</li> <li>・豊田小学校東校舎改築及び大規模改造工事について</li> <li>・スクールソーシャルワーカーから</li> </ul>
令和2年8月13日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年度及びその後の成人式について</li> <li>・1学期の学校の様子・学校行事について</li> <li>・GIGAスクールについて</li> </ul>

実施日	主な研究課題・情報交換等の内容
令和2年9月10日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大成荘について</li> <li>・オンライン学習利用状況について</li> <li>・中学生と作家の交流事業について</li> <li>・令和3年度に向けた予算状況</li> <li>・部活動プロジェクトとインクルージョン教育について</li> <li>・公民館まつりについて</li> <li>・運動会について</li> <li>・わかば教室の取り組みについて</li> </ul>
令和2年10月8日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わくわくプロジェクトの近況報告</li> <li>・台風対応について(避難所、子どもの安全)</li> <li>・今年度の学校行事について</li> <li>・令和3年度予算編成について</li> <li>・小金井市、学芸大とのICTを中核とした事業創造連携について</li> <li>・GIGAスクールの進捗状況</li> <li>・選べる学校制度(小・中学校)の状況について</li> <li>・ロープジャンプ大会の今後について</li> </ul>
令和2年11月12日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就学時健診の状況について</li> <li>・GIGAスクール構想の進捗状況について</li> <li>・豊田小工事の状況について</li> <li>・公民館まつりの報告</li> <li>・ひのっ子シェフコンテストについて</li> <li>・中学生と作家の交流事業報告</li> <li>・日野宿発見隊の事業報告</li> <li>・わくわくプロジェクトの状況について</li> <li>・未来創造プロジェクト、生徒会サミットの状況について</li> <li>・不登校の状況について</li> <li>・令和3年度予算の状況について</li> </ul>
令和2年12月10日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年 日野市成人式について</li> <li>・市長、副市長との意見交換会(12月14日)について</li> <li>・幼稚園の募集状況について</li> <li>・いのちのプロジェクトについて</li> <li>・紫波三中との交流について</li> <li>・市町村教育委員連合会第2ブロック研修(1月22日)について</li> <li>・東日本大震災から10年～大切にすること、伝えること～</li> </ul>
令和3年1月14日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日野の幼児教育の新しい方向性について</li> <li>・卒業式について</li> <li>・35人学級について</li> <li>・GIGAスクールの準備状況(アプリの検討状況)</li> <li>・成人式について</li> <li>・いのちのプロジェクトについて</li> <li>・令和3年度予算について</li> <li>・牛乳補助金について</li> <li>・市町村教育委員連合会第2ブロック研修(1月22日)について</li> </ul>
令和3年2月8日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わかば学級について</li> <li>・卒業式・入学式について</li> <li>・部活動プロジェクトの進捗状況</li> <li>・GIGAスクール準備状況、学校のオンライン活用状況</li> <li>・いのちのプロジェクトについて</li> <li>・成人式への意見等について</li> <li>・五幼閉園式について</li> <li>・仲田小浄化槽工事について</li> <li>・ブロック研修会の報告</li> </ul>
令和3年3月12日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業式、入学式の告辞およびお祝いの言葉について</li> <li>・日野市立学校教科用図書採択要綱の解釈と運用についての質問と要望について</li> <li>・3月の学校行事について</li> <li>・幼稚園の今後について</li> <li>・いのちのプロジェクト</li> </ul>
令和3年3月29日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適正規模・適正配置について</li> <li>・日野市立学校教科用図書採択要綱の解釈と運用についての質問と要望について</li> <li>・GIGAスクールの準備状況および今後の展開について</li> </ul>

(計13回)

(5) 市長と教育委員との意見交換会

教育委員会の施策や予算に関して、市長部局と調整を図るため、市長との意見交換会を実施した。

実施日	主な内容
令和2年12月14日	令和3年度予算について 総合教育会議について

(6) 校長会と教育委員との意見交換会

教育目標の実現を目指し、教育現場の実情や行政課題を把握し、教育委員会の今後の施策や課題に反映させるため、校長会との意見交換会を実施した。

実施日	主な内容
令和2年8月27日	新しい学びの創造について

(7) 教育委員の学校訪問

幼稚園、小・中学校の教育の充実、発展に資するため、教育委員、教育指導担当参事、統括指導主事、指導主事が下記の幼稚園、小・中学校を訪問し、学校経営、概要把握、授業参観、施設、設備の活用状況の把握、教職員との協議、懇談、諸帳簿の閲覧等を行い、学校経営全般にわたっての実態を把握した。

また、下記以外の幼稚園、小・中学校には、教育指導担当参事、統括指導主事、指導主事、学校課職員が訪問し、学校現場の実態把握に努めた。

訪問日	訪問学校	教職員との協議事項等
令和2年5月22日	南平小学校	・学校概要について ・学校休校期間中の子供たちの様子について
令和2年6月22日	大坂上中学校	・学校概要について ・学校再開後の子供たちの様子について
令和2年7月3日	七生中学校	・学校概要について ・新型コロナウイルス感染症対策を講じながらの教育活動について
令和2年10月2日	三沢中学校	・学校概要について ・新型コロナウイルス感染症対策を講じながらの教育活動について
令和2年10月22日	滝合小学校	・学校概要について ・第3次日野市学校教育基本構想の実現に向けた教育活動について
令和2年10月27日	第七幼稚園	・園の概要について ・園内研究「体を動かして遊ぶことを楽しむ幼児を育てる指導の工夫」～コーディネーショントレーニングの実践から～
令和2年11月6日	日野第四小学校	・学校概要について ・校内研究「互いに支え合い、違いを認め合い、自分の成長に自信がもてる児童の育成」～児童の願いをかなえる学級会を通して～
令和2年11月17日	七生緑小学校	・学校概要について ・第3次日野市学校教育基本構想の実現に向けた教育活動について
令和3年1月15日	日野第三小学校	・学校概要について ・第3次日野市学校教育基本構想の実現に向けた教育活動について
令和3年1月29日	日野第一小学校	・学校概要について ・校内研究「多種多様な学びのある指導」～一人一人が主体的に学ぶ姿をめざして～

(計10回)



(8) 教育委員の研究発表会への出席

幼稚園、小・中学校及び教育センターでは、教員の指導方法や指導技術向上のために、研究に取り組んでいる。

研究の成果や課題を市内へ還元・発信する研究発表会には、教育委員、教育指導担当参事、統括指導主事、指導主事が出席し、授業研究の状況の把握に努めるとともに指導講評を行った。

開催日	学校名	テーマ	講師
令和2年10月13日	東光寺小学校	自他を大切にし、よりよい学級・学校を目指す児童の育成 ～互いに認め合い、よさを発揮し合う 集団活動を通して～	國學院大學人間開発部 教授 杉田 洋 氏

(計1回)

(9) 教育委員の視察研修・連絡会等

教育行政の充実に資することを目的として、教育委員を対象とした、東京都、東京都市町村教育委員会連合会、東京都市教育長会等が主催する研修会に参加した。

事業名	実施日	場所	内容
令和2年度 市町村教育委員会 オンライン協議会	令和2年12月23日 令和3年 2月17日	オンライン	教育の情報化について いじめ・不登校支援について 地域と学校の連携協働について 各教育委員会の特色ある教育活動について
令和2年度東京都 市町村教育委員会 連合会 第2ブロック研修会	令和3年1月22日	オンライン	「子どもたちが世界を変える～アウトプットの大切さ」 (1) 仲田小学校児童によるプレゼンテーション ～みんなに伝えたいこと (2) プレゼンテーションに至る経緯について 子どもが教える学校 校長 鈴木深雪氏 (3) 日野市の学校教育について 日野市教育部参事 谷川 拓也
令和2年度東京都 市町村教育委員会 連合会研修会	令和3年2月9日	オンライン	「新型コロナウイルス感染症の現状と対策 ～学校現場の取り組みについて～」 講師 東京都医師会 副会長 角田外科消化器科医院 院長 角田 徹氏

(計3回)

(10) 教育委員の関係行事への出席

学校教育、生涯学習の充実、発展に資するため、学校教育関係行事及び生涯学習関係行事に出席した。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により多くの行事が中止または出席人数の制限をすることとなり、出席が叶わなかった。そのため、学校等が録画した映像を見るなど、状況把握に努めた。

開催日	主な行事等
4月 1日	教職員辞令伝達式
4月18日	日野市民大学開講式
5月14日	退職校長・副校長感謝式
9月26日	運動会(日野第四小学校ほか3校)
10月 1日	運動会(仲田小学校)
10月 3日	運動会(日野第一小学校ほか5校)
10月10日	運動会(第二幼稚園ほか2校)
10月16日	運動会(日野第一中学校)
10月17日	運動会(日野第二中学校ほか2校)
10月24日	運動会(日野第三小学校ほか4校)
10月31日	運動会(日野第八小学校ほか1校)
11月13日	戦没者追悼式
11月22日	第14回ひのっ子シェフコンテスト
3月27日	第五幼稚園閉園式

(計14回)

(11) 教育委員として就任している他の組織の委員等

各組織の運営等に関し、教育的な見地から助言を行うため、委員等として会議に出席した。

組織名・役職	任期	委員名
東京都市町村教育委員会連合会常任理事	平成31年1月～令和2年5月	高木 健夫
東京都市町村教育委員会連合会理事	令和 2年5月～令和4年5月	高木 健夫

## IV 主要な取り組みの執行状況の点検・評価について

### 1 教育委員会の主要な取り組み及び評価対象

日野市教育委員会は、令和2年度の主要な取り組みとして実施した事業のうち、19事業を評価の対象とした。

※一部を除き、中央公民館、図書館、郷土資料館の事業については、それぞれにおいて評価を行っているため対象外とした。

コドモ カティ ガッコウ タイキ  
**みんな**で 対話をしながらつくりあげていく

学び合い育ち合い **ひのわくわく**ムーブメント

一律一斉の学びから 自分に合った 多様な学びと学び方へ わくわくが広がっていく環境のデザインへ	自分たちで考え 語り合いながら生み出す 学び合いと活動へ
--	------------------------------------

世の中と結びつきながら  
“いのち”を感じ “いのち”を伝え合い  
生きるよろこびあふれる明日へ  
みなが参加し ともに知恵を出し合い  
新たな創造へ  
地域の中で感じ 考え 行動する  
子供も大人も共に

- **未来に向けた学びと育ちの基本構想の実現 ～軽井沢風越学園と共に進める新しい学校の創造～**
  - ・「一人一人の子供に合った 多様な学びと学び方」を尊重した授業を通して、子供たち自らの学ぶ力を高めていく。
  - ・「自分たちで考え 語り合いながら生み出す 学び合いと活動」を大切にして、多様な人が知恵を出し合って、よりよいものを創造する。
  - ・未来に向けた学びと育ちの基本構想を実現するため、子供たちが自らの学びをデザインする軽井沢風越学園に教員を派遣し、同学園と連携した教育活動を創造する。
- **新学習指導要領の全面実施に合わせた環境の整備**
  - ・グローバル化や情報化など、社会変化に対応するために改訂された新学習指導要領全面実施に合わせた環境整備を推進する。
  - ・小学校外国語及び外国語活動において、英語の音声や基本的な表現に慣れ親しみ、英語で伝え合う力の素地を育む教育を推進する。
  - ・コンピュータを操作し、プログラミングを体験する活動を通して、論理的思考力を身に付ける。
- **オリンピック・パラリンピック教育の推進**
  - ・オリンピック・パラリンピックの開催を契機とし、チャレンジ精神やフェアプレー精神などのスポーツの価値を理解し、進んでスポーツに親しもうとする意欲を育む。
  - ・障害のある方や海外の方との交流を通して、「多様な人々と共に生きる力」を培う。
- **“いのち”のプロジェクト**
  - ・子供・保護者・地域がそれぞれの願いや思いを受け止め、子供たちが主体となって“いのち”をテーマにした活動を創造する。
- **日野流「対話」プロジェクト**
  - ・一人一人が自分の「願い」を自覚する「対話」、相手の多様な「願い」を尊重する「対話」を深め、広めていく。
- **個の状況にあわせた不登校の児童・生徒への支援**
  - ・社会や学校とのつながりの中で、子供たちが社会的自立や学びの自立に向かえるよう、支え合う活動と「まなび」の充実を図る。
  - ・長期にわたって登校できないすべての児童・生徒について、わかば教室やSSWをはじめとする関係機関が連携し、社会とのつながりの中で自立に向かうことができるよう支援の充実を図る。
- **第5次日野市特別支援教育推進計画推進 ～ひとりひとりに必要なアプローチをすべての子に～**
  - ・児童・生徒の自立や社会参加に向けて、一人一人のもてる力を高め、生活や学習上の困難を改善・克服する教育を推進していく。
  - ・日野市障害差別解消推進条例に基づいた教育活動を展開し、児童・生徒の能力や可能性を最大限に伸ばす。
- **学校における働き方改革の推進**
  - ・「日野市立小・中学校における働き方改革推進プラン」に基づき、教員の長時間労働の状況を改善し、教員が子供と向き合う時間を確保する。
  - ・中学校へのデジタル採点システムの導入、スクール・サポート・スタッフなど学校を支える人員体制の確保等に取り組む。
- **屋内体育館空調設置事業（中学校）・学校トイレ改修（小中学校）**
  - ・学校施設は災害発生時には避難所となるため、学習環境と避難所環境の向上を図る。
  - ・屋内体育館の空調設備を令和2～3年度で中学校全8校に設置する。
  - ・トイレについては全面改修工事の継続と洋式化率向上のため部分改修（修繕）を併行して進める。
- **校舎増改築事業（豊田小）**
  - ・急激な児童増が見込まれている豊田小の東校舎（平屋）を増改築し、必要教室等を収容できる校舎を整備する。同様に不足が見込まれる学童クラブも併設する。

## 視点1 学ぶ

### 1 いつでも どこでも 誰でも学べる環境整備

- 【生涯学習課】★日野市生涯学習基本構想・基本計画（「日野まなびあいプラン」）の見直し
  - ・「日野まなびあいプラン」の新たな策定に向けた一年目として計画の見直しを社会教育委員とともに挙る
  - “まなび創造”ネットワークの構築 ※行動計画⑤
    - ・学び易い環境の醸成、学びに関する情報の一層の活用を行うため、“まなび”創造ネットワークの構築を図る
  - 国登録有形文化財「桑ハウス」の周知・啓発
    - ・講演会の開催、保存修復工事調査報告書を作成するとともに市内外の関係団体との連携を深める
- 【中央公民館】★第2次公民館基本構想・基本計画（令和2年度～令和6年度）の推進
  - ・－市民の暮らしに寄り添いながら 市民のつながりの中に“学び”を生み出す－
  - ★地域の特性を生かした学びの場の充実（学びの種をまく）
    - ・地域特性と課題を踏まえ、地区センターなど地域に出向いての事業実施（学びのモデルづくり）
- 【図書館】★第3次日野市立図書館基本計画（平成30年度～令和4年度）の推進
  - ・くらしの中に図書館を一本と出あい、人と出あう「知のひろば」が地域の文化を創る－
  - ★第4次子ども読書活動推進計画（令和2年度～令和6年度）の推進
  - ★地域・行政資料のデジタル化
- 【郷土資料館】○文化財の収集保管方法等の構築及び活用できる資料としての整備
  - ・保管スペースの確保及び資料の調査と整備・収蔵品管理システムの導入（マイクロフィルムのデジタルデータ化）

### 2 学びに関する様々な情報提供・相談機能の充実

- 【生涯学習課】○文化財保護のための支援 報告書作成、現地見学会、講演会などにより文化財を市民へ分かりやすく周知
- 【中央公民館】○事業展開における情報ツールを見直し、公民館未利用者へアプローチを図る（SNS 情報誌など）
- 【図書館】★図書館利用に障害のある方への様々な図書館サービスの周知・提供
  - 中学生と作家の交流事業の実施
  - 子どもの読書活動の大切さについて、広く市民の関心と理解を深める
    - ・「おはなしピクニック」の開催
    - ・これから親になる方、乳幼児とその保護者への絵本や図書館利用の案内
- 【郷土資料館】★特別展「みんなのひの宝モノ語り展」の開催
  - 調査活動や資料収集を充実し、地域情報を発信
    - ・日野の自然や歴史の情報収集（東京2020オリンピック・パラリンピック、古文書など）
    - ・展示、講演会、ホームページなどでの情報提供

## 視点2 つながる

### 1 顔が見えるネットワークづくり

- 【生涯学習課】○“まなび創造”ネットワークの構築 ※行動計画⑤
  - ・庁内関係各部署の連携による「市民の学びの場」の情報を共有し、事業の重複・競合を避けるよう調整を行う
- 【中央公民館】○サークル連絡会を定期的に行い、サークル内外での利用者同士のつながりを図る
- 【図書館】★地域館における地域との連携推進
- 【郷土資料館】○体験学習や文化の伝承事業及び文化財を通じた情報発信及びネットワークづくり
  - ・文化の伝承及び調査を通しての人脈発掘とネットワークづくり
  - ・校務支援システムを用いた小中学校とのネットワーク

### 2 教えあう 交流する仕組み・居場所づくり

- 【共通】★引き続き市民向け生涯学習イベントを生涯学習部門1課3館と社会教育委員、3館協議会・審議会委員で開催 ※行動計画③
- 【生涯学習課】○「成人式見直しプロジェクト」（仮）の準備
  - ・庁内関係部署による検討会議を設置し、18歳成年と従来の成人式の関係、成人式の式典・イベントとしての方向性を検討
- 【中央公民館】○開かれた学びの提供、緩やかなつながりの創出（交流の種をまく）
  - 談話室や空き室を活用した居場所づくり
- 【図書館】○青少年が交流・発信する場としての「ヤングスタッフ」事業の推進
  - 本を通じた交流の場としての「読書会」の開催
- 【郷土資料館】★「たきび」の詩人 巽聖歌の顕彰事業（たきび前夜祭及び聖歌の展示）
  - ★旭が丘地区センターを拠点とした小中学校などへの、巽聖歌について移動展示の開催
  - 「真慈悲寺の調査」「七生丘陵の調査」「勝五郎生まれ変わり物語の調査」等自主的学習活動への支援連携事業の推進
    - ・『歩こう調べよう ふるさと七生』の利活用
    - ・学校への出張授業等
    - ・学校教育で活用できるデータ等の提供

## 視点3 行動する

### 1 自己実現・社会還元の間や情報提供

- 【共通】★「学びの場プロジェクト」～日野の歴史・自然、見て歩き～の実施
  - ・『歩こう調べよう ふるさと七生』の新たな展開として、日野市全域を対象に「歴史・自然、見て歩き」を新選組のふるさと歴史館と連携して実施
- 【生涯学習課】★地域の力と学校との連携・協働による子供たちへの支援及び地域教育力の活性化への取組
  - ・「地域学校協働本部」による支援・協働活動、放課後学習支援及び体系的プログラムの実施。生涯学習部門と学校教育部門・学校現場での議論・調整を進め、体制を強化してゆく
- 【中央公民館】★市民のつながりの中に、対話的、自律的、体験的な行動を広げることで自己実現を学びから創り出す
- 【図書館】○地域において子どもと本をつなぐ活動に携わる人の育成・支援 ・読み聞かせ講座、懇談会の開催
- 【郷土資料館】○郷土の歴史や自然をより多くの市民や子どもに伝える活動、郷土教育などの推進

### 2 心とからだの健康づくり

- 【中央公民館】○児童のアイデアを活かし、日野産野菜の使用した「ひのっ子シェフコンテスト」の実施により食への関心を高める
  - 田んぼの学校での田んぼ作りから始めるコミュニティの場の創出（農体験から、自然との共生、食文化を学ぶ）
- 【図書館】○平山図書館「闘病記コーナー」の充実、認知症や心の健康などをテーマにした本の展示



# 評価対象事業一覧

※中央公民館、図書館、郷土資料館の一部事業を除く

## 学校教育関係

	事業No.	取り組み及び事業名	ページ
主要な取り組み	1-(1)	未来に向けた学びと育ちの基本構想の実現 ～軽井沢風越学園と共に進める新しい学校の創造～	39
	1-(2)	新学習指導要領の全面実施に合わせた環境の整備	40
	1-(3)	G I G Aスクール構想の推進について	41
	1-(4)	オリンピック・パラリンピック教育の推進	42
	1-(5)	“いのち”のプロジェクト	43
	1-(6)	日野流「対話」プロジェクト	44
	1-(7)	個の状況にあわせた不登校の児童・生徒への支援	45
	1-(8)	第5次日野市特別支援教育推進計画推進 ～ひとりひとりに必要なアプローチをすべての子に～	46
	1-(9)	学校における働き方改革の推進	47
	1-(10)	屋内体育館空調設置事業（中学校）・学校トイレ改修（小中学校）	48
	1-(11)	校舎増改築事業（豊田小）	49

## 生涯学習関係

視点	施策の柱	事業No.	主要な取り組み	ページ
1 学ぶ	1 いつでも どこでも 誰でもが 学べる環境整備	2-(1)	国登録有形文化財「桑ハウス」の周知・啓発	50
		2-(2)	第2次公民館基本構想・基本計画（令和2年度～令和6年度）の推進	51
		2-(3)	地域・行政資料のデジタル化	52
		2-(4)	文化財の収集保管方法等の構築及び活用できる資料としての整備	53
	2 学びに関する様々な 情報提供・相談機能の充実	2-(5)	事業展開における情報ツールを見直し、公民館未利用者へアプローチを図る（SNS情報誌など）	54
		2-(6)	図書館利用に障害のある方への様々な図書館サービスの周知・提供	55
		2-(7)	特別展「みんなのひの宝モノ語り展」の開催	56
		2-(8)	「成人式見直しプロジェクト」（仮）の準備	57
2 つながる	2 教えあう 交流する 仕組み・居場所づくり	2-(8)		

評価対象事業 計 19事業

## 2 点検・評価

主要な取り組み19事業について点検し、39ページ以降「4 個別事業の評価」のとおり、自己評価を行った。その結果、おおむね初期の目標を達成したと考える。

## 3 学識経験者の意見

### (1) ヤマグチロボット研究所 代表 山口 仁一

評価対象事業について各事業の担当者等から説明を受け、その後、質問等をさせていただき、各事業を総合的に評価をさせていただきました。評価は、(A)非常に良い、(B)良い、(C)やや良い、(D)やや悪い、(E)悪い、の5段階としました。

#### 1- (1) 未来に向けた学びと育ちの基本構想の実現

～軽井沢風越学園とともに進める新しい学校の創造～

評価としては、(C)やや良い、と考えます。

本事業では、新設の私立の学校である、軽井沢風越学園において岩瀬直樹先生から直接指導を受けることにより、派遣された教員が新しい教育の姿である「一律一斉の学びから一人一人に合った多様な学びと学び方」「一人一人が知恵を出し合い、話し合いを通して新しい価値を創造する活動」を実践し学び、日野市で実践を広めてくれることを期待し、小学校・中学校からそれぞれ1名、計2名を日野市から派遣しているとのことです。8月25日にはリモートで、岩瀬先生の講演会を聞いた後、自分たちが挑戦したいことについて対話を行い、11月25日には、わくわくプロジェクトでの活動や発表の仕方について対話をしています。

しかし、活動についての報告会や、教職員の教材研究力等、教職員の基礎的技量の底上げをする機会は、新型コロナウイルス感染症拡大により設けることができず、わくわくプロジェクトでの実践を、市内の全小学校・中学校に広めるまでには至らなかったとのことで、事業の経費規模を考えますと、少し残念な状況に感じました。

軽井沢風越学園へ派遣された教員が得た知見を咀嚼し、日野流のものへと昇華させて、日野市の教育に還元されていくという一連の道筋が早期に構築されることを期待します。

なお、少し気になった点としては、軽井沢風越学園へは多くの企業が参画しているようです。よって、多くの知的財産が集まってきているものと思われます。そこで、派遣された教員は他者の権利の状況を正確に把握しつつ、日野市の教育へと還元していただくよう努められることを希望します。また、トライアル的な教育の有効性について、その効果を正確に確認・評価するためには、専門家（例えば、教育学等の博士号取得者の大学教授など、査読有り論文を第一著者で多数執筆したことがある）の指導を受けられ



るのも一つの方法かと考えます。今後の進展をととても楽しみにしています。

#### 1- (2) 新学習指導要領の全面実施に合わせた環境の整備

評価としては、(A) 非常に良い、と考えます。

本事業は、新学習指導要領が小学校に令和2年度より全面実施（中学校では令和3年度）されることから、グローバル化や情報化など、社会変化に対応した指導要領改訂の趣旨に沿い、環境整備を推進する事業とのことです。

特に、印象に残った内容としては、3つありました。

1つ目は、中学校保健体育科の授業が、男女一緒に行われることになったことです。非常に大きな変化であるため、全ての単元において男女共習で行うことや、体力や技能の程度及び性別の違い等にかかわらず運動の楽しみ方を生徒たちが共有できるように、評価規準をもとに指導方法を工夫することが、周知徹底されたとのことです。授業の目的そのものが大きく変わるこの変化が、どのような形で現われてくるのか、私も注目していきたいと考えます。

2つ目は、新学習指導要領の趣旨での「指導と評価の一体化」についてです。内容について教えていただきましたところ、従来の、全ての指導が終わった後に、創作物やテストの結果だけを見て行う評価ではなく、指導と評価が常に繰り返されるサイクルを構築したもので、具体的には次のようになるとのことです。

教員は、まず、児童・生徒の身に付けさせたい力を、どの場面でどのように評価するのかを明確にするために、評価計画を立ててから、指導を行い、その指導の中で、児童・生徒が身に付けさせたい力をどの程度習得したかを評価・分析し、その結果をもとに、後の授業を改善、そして、その改善された指導の中でも、児童・生徒が身に付けさせたい力をどの程度習得したのかを評価・分析し、その結果をもとに、さらにその後の授業を改善するという、これまでのオープンループ的な授業ではなく、クローズドループでの目標値との差分を用いたフィードバック制御構造の教育で、1時間の授業の中でも、教員が指導（発問）をした後の児童・生徒の反応を見て（評価）次の指導（発問）を改善するという、より短い時間の中での指導と評価の一体化も意識しているとのことです。さらに、特に同じ学年を担当する教員間で日常的に指導方法等の情報共有や意見交換も行われていて、授業の内容改善に常に努めているとの説明を受け、その極めてハイレベルな教育体制に感銘を受けました。

3つ目は、小学校においてプログラミング教育が実施されることから、プログラムした内容を基に動作する教育向けマイコンボードの「マイクロビット」を日野第7小学校、平山小学校、豊田小学校に導入されたことです。豊田小学校では、プログラムされたマイクロビットにより動作するロボット「ピノックル」を一人一台体制で実際に動かすことで、学習の成果を体感することができたとのことです。なお、このロボットは、産業振興課と連携することで、複数の日野市内の中小企業と大学が連携して開発にあたった

日野市オリジナルの教育用ロボットであることも特徴となっています。今後も実施例を各校に広げ、プログラミング教育の一層の推進を図っていききたいとのことで、今後の進展に注目していききたいと考えます。

#### 1- (3) GIGA スクール構想の推進について

評価としては、(B) 良い、と考えます。

本事業では、全中学校25校、わかば教室のネットワークを大容量の通信に絶えられものに強化するとともに、小学校2年生～中学校3年生までの児童・生徒、教職員にクロームブックを13,088台購入し、配布しています。機種選定の理由について確認させていただいたところ、教育向けに設計され、授業向けに作られた端末であり、起動が速く、バッテリーが長持ちし、クラウド型で、管理が楽なことが、主な理由とのことでした。

課題としては、液晶画面等を壊してしまうなどの事故による故障の発生件数が、想定よりも多くなっており、今後の修理費用の上昇や修理期間の長期化などが心配とのことでした。予期しない事故による障害に対する保証の加入や持ち運び用のケース等も必要かと思われましたが、どちらも国の補助対象外とのことで、予算的に難しかったようです。PCの取り扱いについての注意を徹底し、事故による故障を可能な限り下げるルール作りの必要性を感じました。

#### 1- (4) オリンピック・パラリンピック教育の推進

実施状況について確認させていただいたところ、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から密になる活動について、計画通りに実施することができず、具体的には、小学校では、特別支援学校や特別支援学級との直接交流、中学校では、オリンピックを招聘しての講演会や講習会、また、ボランティア活動が一部の学校で残念ながら実施できなかったとのことで、事業遂行がとても難しい状況だったようですが、評価としては、(D) やや悪い、と考えます。

#### 1- (5) “いのち” のプロジェクト

評価としては、(B) 良い、と考えます。

本事業では、例年、子どもたちと行っていた対話での取組みが、コロナ禍で難しい状況であったため、今年度は、「子どもたちへのメッセージ」を届け、家族、地域住民、先生などがどのような想いかを伝え、いのちの大切さを考えて貰うことにしたとのことです。素晴らしい試みですが、イオンモール多摩平の森2階の掲示を見に行ったところ、文字が小さめで、少し近づく必要があり、メッセージを読みに行くのに少し敷居が高く感じました。また、似たような内容のメッセージも多くありましたので、簡潔なメッセージに内容をまとめた、ダイジェスト版も視野に入れたらどうかと思いました。また、

一緒に、サインージディスプレイや大型モニターを用いて、順次メッセージが表示されるなど、もう少し工夫されると、より多くの方が足を止めて頂けそうに思いました。このような形式になった経緯について確認をさせていただいたところ、メッセージが、規程文字数（40文字以内）を越えてしまったものが多くあり、すべてのメッセージを掲示することとした関係で文字数が多いものは、小さな文字となってしまう、モニターやサインージも検討したが、機材や音出しなどの課題もあり今回の掲示方法になったとのことです。市役所1階待合席モニター表示も検討されたとのことですが、広告料で設置している関係もあり、これも難しかったとのことです。今後は、駅や公共施設など限られたスペースで掲示するためのポスター版の作成を予定しているとのこと、今後の改善に期待しています。

#### 1- (6) 日野流「対話」プロジェクト

評価としては、(B) 良い、と考えます。

本事業、対話プロジェクトでは、

議論：お互いの違いを明確にして、1つの答えや結論を出す。

対話：それぞれの異なる意味を共有する。多様性から全く新しい道を生み出す。

（参考：David Joseph Bohm『ダイアログ 対立から共生へ、議論から対話へ』）を参考に、議論は「意見やアイデア」を交換し、対話は「意味」を共有する。そのためには、あらゆる「前提」や「べき」を保留する必要があるという考え方で活動をしているとのこと、とても将来に力となる有意義なプロジェクトと考えますが、そろそろ、日野流の「対話」について、具体的に検討していくのは、いかがでしょうか。今後の進展を楽しみにしております。

#### 1- (7) 個の状況にあわせた不登校の児童の・生徒への支援

評価としては、(A) 非常に良い、と考えます。

本事業は、「未然防止」、「早期支援」、「長期化への対応」の各段階に応じた具体的な支援を促進していくとのこと、その内容について、確認させていただきました。

まず、魅力ある学校づくりの手だての一つとして「授業改善」をキーワードに、不登校が生じない魅力ある学校づくりを行うことで、全ての児童・生徒が、学校を魅力ある場所と感じられるようにすることで、「未然防止」を図るとのことです。

つぎに、早期支援とは、遅刻や早退が増え始めた、又は理由が不明な休みが続くようになってきた児童・生徒の状況を把握し、支援を行うことで、支援が必要な児童・生徒の情報を収集・分析、児童・生徒一人一人の状況を的確に把握し、把握した事項を基に、登校支援計画等を作成し、管理職、養護教諭、スクールカウンセラー等を含めた組織的な対応を行うとのこと。

最後に、長期化への対応とは、不登校状態が長期化している児童・生徒に寄り添い、

信頼関係を構築、社会性や人間性の伸長、社会的自立への支援を行うとのことです。

また、学校内での組織的な対応だけでなく、医療を含めた関係機関とも連携し、三沢中学校のがんばルームのような別室への登校や部分的な教室復帰、補習プリント等の教材や ICT 機器を使用した補充学習も行っているとのことです。

さらに、担任一人が当該児童・生徒と関わるのではなく、チームとして関わるようにし、児童・生徒がつらくなった時に、いつでも受け入れられる場所を設けるなどして、児童・生徒の心の安定を図り、一方、教員も、日常の指導を振り返るなどして、児童・生徒とのより良い関わり方について学んでいるとのことです。

児童・生徒の学びを保障するため、学級を分割し、副校長や授業をしていない教員が授業を担当するという対応も考えられるとのことで、私が子どものころとは比較にならないほど充実している素晴らしい支援体制が構築されています。今後のさらなる充実を期待しています。

#### 1ー (8) 第5次日野市特別支援教育推進計画推進

～ひとりひとりに必要なアプローチをすべての子に～

評価としては、(B) 良い、と考えます。

本事業においては、3回の日野市特別支援教育推進委員会開催を予定していましたが、第1回が新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言中となってしまい中止となり、計2回の開催になっていますが、特別支援教育推進計画の重点施策を中心に協議・意見交換が適切に行われ、今後の課題の明確化もできており、適切に実施されたものと考えます。

#### 1ー (9) 学校における働き方改革の推進

評価としては、(B) 良い、と考えます。

本事業、教員の負担を軽減し、働き方改革を推進する制度のなかで、「部活動プロジェクト」・「部活動指導員」の配置は、生徒への影響も大きいように感じましたので、内容を確認させていただきました。部活動における「外部の指導者」とは、顧問教諭とともに技術指導のみを行う「外部指導員」と、顧問教諭が不在の折にも指導や大会引率が行える「部活動指導員」の2種類があり、どちらも、学校の希望に沿った人材を採用しており、顧問教諭の意向を無視して強制的に配置されるものではないので、顧問教諭と外部の指導者との協調関係は築けていけるものと理解しているとの回答でした。しかしながら、生徒への影響、そして生徒からの影響は、避けられないと思いますので、適切に随時修正をしていただきながら生徒理解に、より注力して新しい部活動の在り方へと推進していただければと期待いたします。

1ー (10) 屋内体育空調設置事業（中学校）・学校トイレ改修（小中学校）

評価としては、(B) 良い、と考えます。

本事業において、感染症対策について気になりました。確認させていただいたところ、非接触型の手洗い水栓、照明・換気扇スイッチ等感染症対策が図れているとの事でした。トイレを経由した新型コロナウイルスの感染拡大が多く報告されています。本事業との直接の関係はないかもしれませんが、トイレの使い方の指導など感染拡大防止の徹底を引き続き行っていただきたいと思えます。

1ー (11) 校舎増改築事業（豊田小）

評価としては、(B) 良い、と考えます。

本事業においては、コロナ禍の中でも順調に予定通り進んでいるとのこと。多くのご苦労があったことと思えます。改築後には校舎と体育館の大規模改造工事もあり、おおよそ6年間の長期間に及ぶ計画とのこと、様々な配慮や対応が必要になるかと思えますが、新しい豊田小学校の完成を楽しみにしております。

2ー (1) 国登録有形文化財「桑ハウス」の周知・啓発

評価としては、(B) 良い、と考えます。

本事業では、修復工事が終わった旧農林省蚕糸試験場日野桑園第一蚕室のお披露目の目的で、施設公開をセットにした講演会・学習会が「日野市産業まつり」の関連行事として計画されていましたが、新型コロナウイルスの感染拡大により「産業まつり」そのものが中止となったため、中止にされたとのこと。「市民の皆様にご来場いただき、施設をご覧いただくことに重きを置いていたため、オンライン開催にするのではなく、その後も開催の機会をうかがっていましたが。」とのことですが、新型コロナウイルス感染症終息の見通しが立たず、実施できなかったとのこと。

そこで、12月の補正予算により、第一蚕室の修復工事の過程を記録したDVDを作成し、ホームページ上で公開されたとのこと。内容を確認させていただいたところ、とても良くできており、修復自体も市内企業と連携して行っており、とても感心いたしました。しかしながら残念なことに、再生回数が200回にもまだ達しておらず（令和3年7月末時点）、市民に十分に周知されていない状況のようです。また、映像の解像度が少し低めのようなので、撮影の原本の解像度に近い、より解像度を高めたバージョンがあれば、より資料的価値が高まるとともに、より臨場感があり楽しめるものになるものと考えます。

2ー (2) 第2次公民館基本構想・基本計画（令和2年度～令和6年度）の推進

評価としては、(A) 非常に良い、と考えます。

本事業では、コロナ禍の中、積極的にIT技術を導入し、Wi-Fi設備の整備やオンラ

イン対応を行っています。また、「公民館まつり」、「平和公演」等が中止となっていますが、柔軟に代替の事業を検討、実施しています。そして、感染防止対策も適切に行われています。

今後、アウトリーチ事業のオンライン中継や動画を制作して情報発信等を行うことや、ライブビューイングを積極的に活用していくとのことで、アフターコロナを見据えた公民館のさらなる進化を期待しています。

#### 2- (3) 地域・行政資料のデジタル化

#### 2- (4) 文化財の収集保管方法等の構築及び活用できる資料としての整備

上記2つの事業の評価としては、(A) 非常に良い、と考えます。技術面のコメントとしては、紙での保管に対して、デジタルデータでの保管の方が、長期的保管の観点では、紙での保管に対して劣る面もあるため、その点を十分に考慮して進めていただければと考えます。

#### 2- (5) 事業展開における情報ツールを見直し、

公民館未利用者へアプローチを図る (SNS 情報誌など)

評価としては、(A) 非常に良い、と考えます。

本事業では、これまでできなかった、異常気象やコロナ禍等に対しての迅速な情報発信を、公民館ホームページを日野市のホームページ内に移動して、職員がホームページを直接更新できるようにすることで実現しています。そして、ツイッター・日野市公式LINE 等の SNS の活用についても、情報発信強化チームを作り、より効果的な情報発信が可能になったとのことです。また、「地方創生臨時交付金」を活用して、Wi-Fi 設備を整備し、遠隔学習が提供できるようになる等、令和元年度と比較して、コロナ禍の中にもかわらず、IT 技術の活用レベルを大幅に高めることに成功しており、その努力に対して、とても高く評価いたします。

#### 2- (6) 図書館利用に障害のある方への様々な図書館サービスの周知・提供

評価としては、(B) 良い、と考えます。

本事業は、とても大切な事業と考えますが、音訳者講習会では、音訳の場合、オンラインでは聞き取りにくいのではないかと、講師と生徒のやり取りがスムーズにいかないのではないかと懸念があり、手話講座では、図書館内での職員研修として、オンラインを活用する予定で準備を進めていたそうですが、iPad の全館への配備が遅れ、間にあわなかったとのことで、オンラインへの対応が難しかったようです。また、様々な機会でも PR を行っていますが、利用登録数が横ばいとのことで進め方に悩んでおられるようですが、他の事業の情報発信担当者との意見交換や協力関係の構築などを検討し、最先端 IT 技術を活用できる素地の構築に努められることを期待します。

## 2- (7) 特別展「みんなのひの宝モノ語り展」の開催

評価としては、(B) 良い、と考えます。

本事業では、新型コロナウイルス感染症の影響下での開催であったため、郷土資料館特別展「みんなのひの宝モノ語り展」の講演会とミニシンポジウム（令和2年秋）の開催を予定されていましたが、この時点ではオンラインの活用に関する職員の知識・技量や、環境が十分ではなかったため、ミニシンポジウムのネット公開だけにとどまる結果となり、双方向でのイベントとして開催するまでには至らなかったとのことです。また、体験学習会は「3密」防止の観点から中止にされたとのことです。

しかしながら、この特別展においては、展示資料ごとにQRコードを設置し、来館者がスマートフォンなどを利用し、説明員と接することなく資料解説の動画を見られるようにされたり、SNS情報発信、動画配信、VR紹介サイト「VR日野宿本陣」の開設など、多くの工夫を多数され、とても努力されたことを高く評価いたします。この1年で、魅力を高める様々なノウハウが蓄積されたようですので、今後の進展がとても楽しみです。

## 2- (8) 「成人式見直しプロジェクト」(仮)の準備

評価としては、(B) 良い、と考えます。

本事業では、例年、行政主催の成人式では、大勢の来賓をお呼びして、新成人になったことをお祝いする場として、式典を行っていましたが、オンライン開催としたことで、当事者との思いの乖離がはっきりとしたそうです。具体的には、新成人が集まる場がなくなったことに対して大きな反響があり、「集まる場が欲しかった」という声が多く寄せられたとのことです。つまり、新成人にとっての成人式には、「集まれる場」の存在が極めて重要であることが明確になったため、成人式の内容の見直しを行うとのことです。日野流の新しい成人式の誕生に期待しています。

全体を通してですが、各事業、新型コロナウイルス感染症拡大のなか、感染症拡大への対策を十分に行いながら、IT技術を学ばれ、比較的短い期間で、オンライン対応を進められたことに対して、とても高く評価いたします。各事業の担当者間でのスキルの習熟レベルに差が少しあるようですが、各事業の担当者間で教え合うなど、情報共有に努められ、令和3年度も、関係者一同一丸となって、健康に十分に注意されながら、アフターコロナを見据えたさらなる進化を成し遂げられることを期待いたします。

## (2) 画家 蟹江 杏

### 1- (1) 未来に向けた学びと育ちの基本構想の実現

～軽井沢風越学園とともに進める新しい学校の創造～

新学習指導要領の導入、外国語教育の充実など、2020年には多くの改革が行われたと聞きました。さらには、新型コロナウイルスにより、学校教育や社会全体も変化を求められています。

そんな中でも、時間は流れ、子ども達の成長は止まる事はありません。

学校や教育現場は、常に生き物のように息をして柔軟に変化していく力が必要なのでしょう。

軽井沢風越学園は、そんな時代を象徴するかのよう新しい教育の考え方を取り入れ開校した私立学校です。

その最前線から日野市の教員の方々が学ぶ機会がある事はとても意味がある事だと思います。

また、先日の会議の際、「私学と公立では出来る事がちがうのでは？」という意見もありましたが、私は、本来、私学だから、公立だからという括りで、教育のあり方や方法が変わってしまう事は、選ぶことのできない状況の子どもにとっては残念な事だと思います。

よくよく制度を読み解けば、むしろ公立だからこそ自由に挑戦できる側面は多分にあると感じます。

また、経済的な問題や、家庭の問題などに関わらず、各々が自分にあった教育を選んで受けられる状況になるのはどんなに素敵なことかと思つづく思います。

フィンランドをはじめ他国の教育無償化を、私達は日本と比べて机の議論にのせることがあります、その部分のみを論ずるのは、表面的な状況を見ているに過ぎず、まずは教育制度の前にもっと根本的な国の違いに目を向けて話あうべきだと思っています。

フィンランドの例を見れば、日本のコンビニの数より多くの図書館があり、利用する人の数も日本とは比べ物になりません。

要は、教育は学校だけで行われるものではなく家庭や地域の文化的環境が重要であると感じます。

どんな事でもそうでしょうが、急に表面的な部分だけを真似したとしても結局は同じ事の繰り返しの様な気がします。

「教育」は特に、辛抱強く待つ事を多く求められますし、結果を得る為にもあらゆる事象を優しく受け入れていきながら、子どもたちを、中期的、いや、長期的に見ていかなければ、問題解決は難しいと感じます。

そしてこの「優しく」がポイントです。

常々私は問題の全てを教員や学校のせいにはいけないと考えてきましたが今こ



そ、地域や家庭をつくる私たち一人一人が、その気持ちを、さらに強く持たなくてはいけない時代がやってきたのです。

また、それ受け止めて、一緒に歩むことのできる力を、教員の方々が身につけていくのが大切な事でしょう。

今後の課題だとお聞きした、ワクワクワークの参加者と参加できなかった約600人の教員の意識に差ができてしまう事について解決する為の取り組みの実施は大きな一歩だと感じました。

それには、教員の方々の自尊感情を大切に、活かした力を最大限発揮できるような、子ども達だけではなく教育に携わる人達のための個別適正化の教育方法を実施していく事が必要なのだと思います。

#### 1- (2) 新学習指導要領の全面実施に合わせた環境の整備

先日のご説明をお聞きして、意見交換をさせていただく中で、何が教育課題として存在しており、どのような取り組みが行われているのかがぼんやりとですが、わかりました。

そこから、新学習指導要領の全面実施にあたり教員に求められている力が大きいな、と感じたのも事実です。

では、その力とはそれはなんだろう？と、文部科学省の近年提言等の以下の文面からまずは読み解きたいとおもいます。

(引用元：教員に求められる資質能力等について（近年の提言等より抜粋）文部科学省, P4)

新たな課題に対応できる力

外国語教育の教科化やプログラミング教育の実施など、時代や社会の変化によって未来を切り拓いていく子どもに適した資質・能力は変化します。だからこそ教員は、探求心を持ち、適切な情報を得ることで、自身が新たな課題に対応できる力をつけるとともに、子どもにも課題に対応できる力をつけることが求められます。

とあります。

自律的に学び続ける力という意味でしょうが、それができたら、悩まず済むという話で、。

今までそのような教育を受けていない世代の人間が新たな教育を理解して、子ども達に実践するのは普通に考えても、とても大変な事です。

ましてや変化が激しい時代においてそこについていくのは、教員でなくとも一筋縄ではいきません。

勤勉で柔軟な教員像が強く求められれば求められるほど、先生も人間だもの、気持ち

が押しつぶされてしまう方も多くなって来るのだらうかと予想します。

これまで教員として不易とされてきた資質能力に加え自身のキャリアステージに応じて、求められる資質能力を高めていく力をつける必要がある、なんて尚更のこと。

教員の方には子ども達のために最大限の力を発揮していただくためにも、環境の整備と共に、教壇に立つ人を支えるシステムは必要だなどつくづく感じます。

それも踏まえて、日野市では、ICTは外部スタッフを配置しているとのこと。

このような専門家との連携は大切だと思いました。

新学習指導要領の実施にあたり、学校や教員はあらゆる専門家と協働する事で、情報を適切に収集し、選択し、活用する能力や知識を有機的に構造化できることが大切だと思います。

教員や教育関係者の方には、いつの時代もおおらかな気持ちで子どもに接して頂き、どんな教科であろうと、結果だけでなく一人一人の学びの過程を見逃さない余裕を持って頂きたいです。

#### 1- (3) G I G Aスクール構想の推進について

ここ約10年間でスマートフォンが中学生に一気に浸透し、インターネット環境のない家庭が珍しくなり、むしろ新聞をとっている家庭が激減する、という流れがあるそうです。

学校でも、班の数だけノートパソコンを配布して調べさせても接続が悪くてあちこちでインターネット接続が止まってしまう、というような状況から、児童、生徒に各自一台ずつのICT機器を利用して学習を進めたりするという状況までに変化しました。

次の10年間では、整ったICT環境の中で学校の授業が行われるという状況は当たり前となり、AIがいかに社会に浸透していくかによって、教育のあり方も働き方も大きく変わって行くことは確実であろうと考えます。

そして、それが明るい未来の光景である事を望みます。

そんな中、日野市の子ども達がいち早くクロームブックなどに触れられる環境は素晴らしいですし、まして、Wi-Fiの環境がない家庭への配慮などについて、とても感心致しました。

そうとはいえ、ITネイティブではない私たち大人が心配している事は大抵一緒な気がします。

子ども達には、AIに振舞わされる人間ではなく、正しく使いこなせる人になって欲しい、スマホの世界だけに閉じこもらないで欲しい、ネット犯罪へ巻き込まれないか、などなど、不安は尽きません。

では、この時代を迎え、子どもが身に着けるべき力はどのようなものなのか。

素人ながら私は「読解力」というひとつの切り口があるのではないかと、とつらつら考

えました。

ただし、「読解力」に対する捉え方は人それぞれで、まだまだ漠然としたものですが、それは、国語や、美術、音楽の教科の中にもヒントが多くあるのではないかな、と、個人的に研究中です。

#### 1ー (5) “いのち” のプロジェクト

まず、このプロジェクトが素敵だな、と思ったのは、保護者、学校、教育委員会の3者が、「いのち」というテーマで一緒に取り組んでいる事です。

そして、出てきた形が、大切な人とのメッセージの交換である。という内容。

シンプルですが、「いのち」という難しい謎々に対して、ストレートな方法で答えている所です。

いのちの定義は、それこそ人それぞれです。

言葉の世界に依存している私たちは、「生」と「死」を明確にわけられると思っ  
ていますが、ある解剖学者によると「人の定義が怪しくなるのが、死ぬところと、生  
まれてくるところ。ユダヤやアメリカ、国や宗教によっても捉え方が違うのです。」  
と言います。

私も「いのち」ってなんだろう？と思います。

今回のこの取り組みは一つの答えを導き出しました。

一人一人が自分以外の大切な人へメッセージを可視化して送り、それを公開する事。  
そして、私も、皆が書いた一つ一つのメッセージを読ませて頂き、「どれも正解だ！」  
と思いました。

#### 1ー (7) 個の状況にあわせた不登校の児童の・生徒への支援

私のご縁があつていろいろな自治体の様子を見ていますが、

日野市は、不登校などの問題にきちんと向かい会いとても手厚いと感じます。

それは、私も日野市民として自慢ができるところです。

お話を伺いソーシャルワーカーや関係機関と学校や家庭との連携もきちんと取れて  
いるのだと感じました。

三沢中のガンバルームの取り組みも、今後、もっと成果を上げていくと確信します。

私が何かをここで記すよりも、もしかしたら参考になるのかもしれないと思い、

私が活動しているNPO法人で預かっている以前不登校だった女の子が中学一年生  
になった時に書いた文面をそのまま載せます。

何の気なしに書いたようです。

公開は本人の許可済みです。

ちなみに「推し」とは、彼女の好きなアイドル歌手を指す言葉です。

今は、日野市民となり、休まず元気に登校しています。

本人は口に出してはなかなか言わないので、わからなかったのですが、こうして読むと不登校の子どもの視点がわかりやすい文章だと思います。

一概に不登校児だから、と一括りにできないなと思いましたし、感じ方はそれぞれですね。

この時、周りの大人がどうすべきだったのか、という答えは、私にもありません。

.....  
すごく長文になってしまうと思いますが最後まで読んでくれたらうれしいです。

俺は小学校の時に不登校になったことがあります。

2年生の時転校することになってしまいました。

お別れの手紙をくれた人も何人かいました。

俺はその時男の人が苦手でした。

離婚する前に父が母に暴力したことがあります。

それがきっかけで男の人に慣れない時期がありました。

転校した先の学校の担任は男の人でした。

自分の中で気持ちを落ち着かせるためにも3日ほど休みました。

でもこの3日で俺は学校に行くのが嫌になってしまいました。

2年生。

学校に行かないまま3年生になりました。

担任が女の先生になって少しだけ学校に行こうと思いました。

夏休みの宿題を提出しました。

そこでは普通に一学期を過ごせました。

でも急に学校に疲れて1週間休みました。

この1週間がダメでした。

学校に行こうと思っているのに体が動かない。

これを自分の中で言い訳にしてみました。

学校に来ないと言う理由で陰口を言われるようになりました。

それで学校に行きたくないと言う気持ちが自分の中でさらに強く芽生えました。

買い物も日曜日も、

外に学校の人がいるかもだから行きたくありませんでした。

でも用事があったので出かけたこともあります。

そしたら知らない上級生に悪口を言われて絶対に学校に行かないと決めました。

家にいると、皆から、先生に書けと言われて書いたであろう手紙が届きます。

そこには心にもない綺麗事が並んでいました。

市役所からも「学校に行こう」などと言われました。

もう自分のことなんて放っておいて欲しかった。  
何も俺の気持ちなんか理解しようともせず綺麗事を口を出す人たちが嫌でした。  
不登校は甘えだ。  
親の気持ちを考えろ。  
考えたところでどうすればいいんだよ。  
相談しろ  
誰に？  
相談したところで何も変わらない。  
そう思いながら毎日を過ごしていました。  
そんなある日なんとなく動画を漁っていると「不登校の君へ」と言うタイトルの動画がありました。  
これなら少しでも楽になるかもしれない。  
そう思って不登校者に向けて作られた動画を見ていました。  
でも少し違った。  
少し自分には合っていなかった。  
YouTube で歌を聴いていた時に  
今の推しに出会えた。  
推しは今まで俺がかけてもらいたかった言葉を全部かけてくれた。  
普通は目の前にいる生きている人の言葉を選ぶかもしれないが、  
俺には YouTube の中の推しの言葉の方が何倍も力をくれた。  
それがたとえ俺個人に向けた言葉でなくても。  
俺は過去のことなんて絶対話したくない。  
忘れたい。そう思っていた。  
でも推しのおかげで変わった。  
過去があってこそその未来なんだって思える。  
推しがいてくれたから学校に行けるようになった。  
今でも推しにたくさんの勇気をもらう。  
だから推しが傷ついていると推しのために戦いたくなる。  
心ない言葉から推しを守りたくなる。  
とりあえず俺が言いたいのは不登校だからどうか言う人への反論です。  
自分語り失礼しました。  
ごめんなさい。  
敬語ぐちゃぐちゃ。

「君がいじめられて苦しんでいる時  
代わってあげられなくて悔しい。

君が家族のことで悩んでいる時  
連れ出してあげられないことが悔しい。  
泣いている時涙を拭いてあげられない。  
寂しいとき手をつないであげられない。  
君が頑張っていることを俺は知っているのに、  
君が毎日一生懸命生きていることを俺は知っているのに、  
君を守ってあげられないことが、  
俺は本当に悔しい。  
だからせめて君の心を守れる人でありたいとそう思いました」

以上、俺がその時、だれかから欲しかった言葉です。

.....

#### 1ー (8) 第5次日野市特別支援教育推進計画推進

～ひとりひとりに必要なアプローチをすべての子に～

私は、発達障害や自閉症の子どもと過ごすことが多いのですが、  
そのボーダーラインが曖昧になってきていると感じています。

問題がないと思っていた子でも、ふとした時にあれっと思う事も少なくありません。  
私も自分自身に あれっと思うくらいですから。

それは、子ども一人一人の特性と状況を細かく見ていこうと、意識を持って現場に立つ  
つ人が増えてきたからではないかと思います。

症状が認められた子どもの人数が増えるのも、保護者が隠さず教員や専門家に相談で  
きるようになってきたからなのも事実ですし、本人の自己申告というケースも多いとの  
事。

近年、発達障害や自閉症について一般向けにわかりやすく書かれた著書もたくさん出  
版されています。

メディアで話題が出ることも多くなりました。

自閉症の子どもが書いた本が世界的ベストセラーになり、それが映画化までされると  
は、今まで考えられなかった変化です。

こうして本人が堂々と社会に自己表現することで、私達は彼ら彼女らの内なる世界に  
触れることもできるようになりました。

「障害って名前をつけるから皆、障害になってしまうんだよ」なんていう意見も時々  
聞きますが、私は、こうして、名前がついたことで、周囲が子どもの状態に気がつくな  
らば、それは明らかに前進だと考えます。

その障害というネーミングが適切かどうかは置いて、まずは、その人間の多様性  
を認識し共有する事に焦点をおきたいと思います。

障害の名前についての議論するよりもその子どもの内なる宇宙を見つめる事を大切にしています。

日野市の「かしのきシート」の存在は、子ども本人だけでなく保護者にとっても大きな支えになっていると、実際利用している方からお聞きしました。

子どもの状況は刻々と変化するので、関わる大人が継続してシートを確認できるシステムは、その子の将来にとって大切なことだとわかります。

こうした流れ以前から、いち早く日野市は特別支援教育への取り組みを強化して、積極的に予算をつけたことも素晴らしいと思います。

発達・教育支援センター「エール」は、市長部局の健康福祉部発達支援課と教育委員会教育部教育支援課の両方が管轄しており、福祉部門と教育部門が一体となって支援をしていると聞きました。

また、ただ子どもを分類して教室を分けるだけではなく、日野市において、学習障害（LD）、注意欠陥・多動性障害（ADHD）、高機能自閉症の児童・生徒は状況に応じて通常学級で過ごしているのも、良い点な気がします。

発達障害がある場合はちょっとした音でも気になる傾向がある事に配慮して、予算をつけ、音が出ない机と椅子をすべての学校に買い替えている、という記述を見つけ、その寄り添いに驚きました。

この子に何をしてあげようかは個別的配慮であり、学校の環境、地域の環境を整えておき、その上で大切に個別的配慮が生かされていると感じました。

私は仕事柄、特別支援教育についてはいろいろな自治体とお話することがありますが、理想と現実が一致せず、実際はうまく機能していないことが多い印象があります。

その中でも、日野市は子どもと保護者の目線で取り組んでいるところが、結果につながっているのだろうと感じました。

1ー (10) 屋内体育空調設置事業（中学校）・学校トイレ改修（小中学校）

1ー (11) 校舎増改築事業（豊田小）

予算がかかる事ですが、子ども達の学びと遊びの環境。健康の配慮。そして環境の事を考えると不可欠だとおもいます。

2ー (1) 国登録有形文化財「桑ハウス」の周知・啓発

個人的な趣味ですが、私は桑ハウスの趣が昔からどうも好きです。

もちろん、その歴史や文化を知るとさらに興味が湧きます。

このような建築物を残していくことは、とても意味深いことです。

昔の人々の痕跡を感じる空間の魅力はその場所にきて感じないとなかなか説明のつ

くものではないですから、コロナウイルスなどで、学習会が開催できなかったのは残念です。

きっとDVDなどの周知が行き届くことで、私のように、「なんかこの建物好き」が入り口になり、だから桑ハウスの歴史や文化を学びたいと思う方々が増えると思います。

私としては、市外からも沢山の人の訪れてもらいたい場所の一つです。

より桑ハウスを知るためにも、DVDに続き、ブックレットの刊行にも期待します。

## 2- (5) 事業展開における情報ツールを見直し、

公民館未利用者へアプローチを図る（SNS情報誌など）

公民館は、社会教育の中核的施設としてだけでなく、住民参画の地域づくりを実施する場です。

一方、現在の社会は、少子高齢化に伴う急速な人口減少や社会情勢の変化、コロナウイルスにより、公民館・社会教育は転換点です。

だからこそ、課題を解決の含め、これからの地域作りのためにも、さらに公民館活動の展開が欠かせないと思います。

コロナ禍の影響で、やむを得ずオンライン開催になってしまった事業が高齢者の方に伝わったのか心配ですが、むしろこの時期に、SNSやメディアへの呼びかけなど、周知や活動方法を広げて頑張ってもらいたいとおもいます。

## 2- (8) 「成人式見直しプロジェクト」(仮)の準備

行政主導の式典から当事者が望む成人式に変えていく。というのは素晴らしい取り組みだと感じましたが、当事者の方々に実行委員の募集をしたところ、応募はなかったとお聞きし、とても残念な気持ちになりました。

が、ちょっと待てよ、と、その頃の自分を思い出してみました。

私は、式典や行事嫌いで、内容云々以前に成人式は、はなから出席する気もなく、欠席したのでした。

やはり、親や周囲をガッカリさせたものです。

私のケースは極端としても、彼ら、彼女らも、成人といえどもまだまだ精神的には発展途上、その頃は自分のことに精一杯で、そのような募集に応募してまで参加する意識をもてる状況の人の方が少ないと思い直しました。

けれども、実行委員を募集することは大切であり、どうか誰かしら手を挙げて参加してくれることで、それをきっかけに成人としての意識を少しでも持つきっかけになるかもしれないですね。

やはり、やらされた式典ではなく、自分たちでつくった成人式で大人になったという意識はその後の社会人としての彼らにとって大きな意味を持つと思います。



No.1-(1)	未来に向けた学びと育ちの基本構想の実現 ～軽井沢風越学園と共に進める新しい学校の創造～		
主要な取り組み			
担当課	学校課	事業経費	14,285,835円
事業の目的			
<p>日野市教育委員会は、平成31年3月「日野市未来に向けた学びと育ちの基本構想」（以下 第3次日野市学校教育基本構想）を策定し、子供たちが自ら育んでいく力を「すべての“いのち”がよここびあふれる未来をつくっていく力」としている。この力を育むには、一人一人の学びの興味や理解の仕方が違うことをふまえた指導を行うことが不可欠であり、教室での学びが「一律一斉の学びから一人一人に合った多様な学びと学び方へ」と昇華することが必要である。令和2年度に開校した軽井沢風越学園は、一律一斉の学びから一人一人に合った多様な学びと学び方を目指し、「個別的な学び」「協働的な学び」「プロジェクト型の学び」が融合された授業を取り入れている。開校初年度である令和2年度から日野市立学校の教員2名を派遣した。新しい学びの創造を体験した教員が得られた知見を日野市の教育に還元することを目指す。</p>			
事業の概要			
<p>◆第3次日野市学校教育基本構想には「一律一斉の学びから自分に合った多様な学びと学び方へ」「自分たちで考え語り合いながら生み出す学び合いと活動へ」「わくわくが広がっていく環境のデザインへ」という視点が示されている。市内全小・中学校・わかば教室から集まった担当教員が、これらの視点をもとに、第3次日野市学校教育基本構想に基づく授業を創出するプロジェクト活動（以下 わくわくプロジェクト）を行う。</p> <p>◆軽井沢風越学園に派遣した教員が新しい学校づくりの中で得た知見を日野市の教育活動に還元する。</p> <p>◆軽井沢風越学園とわくわくプロジェクトが連携し、第3次日野市学校教育基本構想に示されている内容を基にした教育活動を教員が考え実践する機会を設ける。</p>			
事業の成果・評価			
<p>◆わくわくプロジェクトに参加した教員は49名であった。</p> <p>◆6月以降12月まで月1回を基本にわくわくプロジェクトを開催し、個人での実践や校内での実践を中心に検討することができた。</p> <p>◆令和2年8月25日には、軽井沢風越学園の校長・園長 岩瀬直樹先生を講師に迎え、わくわくプロジェクトに参加している教員が軽井沢風越学園での挑戦や授業実践について聞く機会を設けた。わくわくプロジェクトに参加している教員は、第3次日野市学校教育基本構想に基づく授業について考えることができた。</p> <p>◆令和2年11月25日には、日野市から軽井沢風越学園への派遣教員が軽井沢風越学園での挑戦や授業実践を報告し、わくわくプロジェクトに参加している教員と共に日野市立学校の授業に取り入れられる授業実践を考えることができた。</p> <p>◆令和2年12月18日には、日野市から軽井沢風越学園への派遣教員とわくわくプロジェクトに参加している教員が、これまでの授業実践を報告する方法について検討し、令和2年度わくわくプロジェクト実践事例集としてまとめた。</p> <p>◆わくわくプロジェクトに参加している教員は、第3次日野市学校教育基本構想に掲げられている「一律一斉の学びから自分に合った多様な学びと学び方へ」「自分たちで考え語り合いながら生み出す学び合いと活動へ」「わくわくが広がっていく環境のデザインへ」という視点をもとにした授業を考え実践することができた。具体的には、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人テーマをつかって水について研究する</li> <li>・地域活動を取り入れた総合的な学習</li> <li>・教科横断型の授業</li> <li>・釜山日本人学校との交流授業 等である。</li> </ul> <p>◆わくわくプロジェクトにおいて市内全小・中学校とわかば教室の教員が交流することにより、学校種を超えた研修の場をつくることができた。</p> <p>◆校務支援システムに「わくわく掲示板」を設けたことにより、日野市内の全教員にわくわくプロジェクトに参加している教員の実践を共有できた。</p>			
今後の課題			
<p>◆わくわくプロジェクトでの実践をわくわくプロジェクトに参加している教員間で共有することはできたが、市内の全小学校・中学校に広めるまでには至らなかった。令和3年度は、わくわくプロジェクトを通して、市内全幼稚園・小学校・中学校での新しいアイデアや実践を広げる。</p> <p>◆新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、軽井沢風越学園との連携がオンラインのみにとどまった。軽井沢風越学園での「個別化の学び」「協働的な学び」「プロジェクト型の学び」が融合された授業を核にした新しい学校づくりの過程を市内の教員に知らせ、第3次日野市学校教育基本構想に基づく授業づくりにつなげるため、連携の機会を増やす。</p>			

No.1-(2)	新学習指導要領の全面実施に合わせた環境の整備		
主要な取り組み		事業経費	54,297,256円
担当課	学校課		
事業の目的	<p>新学習指導要領が小学校で令和2年度より全面実施（中学校は令和3年度）されることから、グローバル化や情報化など、社会変化に対応した指導要領改訂の趣旨に沿い、環境整備を推進する。</p>		
事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理職を対象とした教科書の勉強会を複数回開催し、評価方法や「主体的・対話的な学び」のあり方について意見の共有を行った。</li> <li>・小中学校各校に指導事項が赤字で付された「朱書き教科書」を各学級1冊ずつ配布し、改訂箇所や指導のポイント等を周知した。</li> <li>・「中学校保健体育科の男女共習における指導の在り方に関する研修会」を開催し、新学習指導要領が求めている男女共習の趣旨について周知徹底した。（令和3年2月18日）</li> <li>・小学校の外国語及び外国語活動では、ICT機器やデジタル教材を用いて、音楽や動画を効果的に活用し、英語で伝え合う素地を育む教育を推進した。</li> <li>・小学校においてプログラミング教育が実施されることから、プログラムした内容を基に動作する教育向けマイコンボードの「マイクロビット」を日野第七小学校、平山小学校、豊田小学校に導入し、実感を伴った教育活動を推進した。</li> <li>・学習指導要領改訂に関わる各種資料の配布等を行い、周知徹底した。</li> <li>・教育課程届け出に際して、新学習指導要領の理解の確認を徹底した。</li> </ul>		
事業の成果・評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校では研修会等の実施により新学習指導要領への移行が円滑に行われ、授業や評価に反映することができた。</li> <li>・小学校の外国語及び外国語活動では、音楽や動画を用いることで、歌や動作を交えて楽しみながら英語の基本的な表現に触れることができた。</li> <li>・「マイクロビット」を導入した豊田小学校では、プログラムにより動作するロボット「ピノックル」を実際に動かすことで、学習の成果を体感することができた。「マイクロビット」を用いて、課題解決型の授業を体験した児童は、問題の解消に向けて論理的に考えることができた。</li> </ul>		
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和元年度の日野第四小学校、日野第六小学校に続き、令和2年度は、日野第七小学校、平山小学校、豊田小学校が「マイクロビット」を導入したが、今後も実践例を各校に広げ、プログラミング教育の一層の推進を図る必要がある。</li> <li>・「指導と評価の一体化」の実現等、新学習指導要領の趣旨等については、教員向けの研修会や教務主任研修会等を通じて、周知徹底を図る必要がある。</li> </ul>		

No.1-(3)	GIGAスクール構想の推進について		
主要な取り組み			
担当課	学校課・ICT活用教育推進室	事業経費	855,004,633円
事業の目的	<p>日野市教育委員会は、平成31年3月「日野市未来に向けた学びと育ちの基本構想」（以下 第3次日野市学校教育基本構想）を策定し、子供たち自らが育んでいく力を「すべての“いのち”がよるこびあふれる未来をつくっていく力」としている。この力を育むには、一人一人の学びの興味や理解の仕方が違うことをふまえた指導を行うことが不可欠である。一人一人の学びの興味や理解の仕方が違うことをふまえた多様な学習機会と場の提供をするため、小学校2年生～中学校3年生までの児童・生徒にクロームブックを一人一台貸与するとともに、各学校におけるオンライン環境を整え、「公正に個別最適化された学び」が充実することを旨とする。</p>		
事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年度は令和3年度からの授業での活用に向けた環境整備を行った。（校内ネットワークの再構築、端末購入とセットアップ、教員への研修会など）</li> <li>・全小中学校25校、わかば教室のネットワークを高速で大容量の通信に耐えられるものに強化した。</li> <li>・クロームブックを13,088台購入し、小学校2年生～中学校3年生までの児童・生徒、教職員に配布した。クロームブックは教育向けに設計され、授業向けに開発されたパソコンである。（起動が速い。バッテリーが長持ちする。使うアプリはすべてWEBベースなのでソフトウェアが不要なため管理が楽。など）</li> <li>・教職員に有識者講演会や集合研修、オンライン研修を併合して実施し、クロームブックを活用した授業ができるようにした。 <ul style="list-style-type: none"> <li>◆有識者講演会：令和2年12月に開催（1回）、各校のICT活用推進委員対象、テーマ：ICTは学習インフラ/自学と振り返りのループで自己調勢力を育む</li> <li>◆集合研修：令和3年2月～3月に開催（4回）、各校から6名が参加、内容：Google for EDUCATIONのアプリケーションの使い方を研修し、授業で活用できるようにした。</li> <li>◆オンライン研修：令和3年3月に開催（3回）、クロームブックの基本的な操作方法など</li> </ul> </li> <li>・令和3年度に各学校とわかば教室でのクロームブック活用等を支援する事業者を、プロポーザル方式で選定した。</li> </ul>		
事業の成果・評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年3月までに当初の予定通りネットワーク整備と端末配布を完了し、令和3年4月からの全小中学校の授業等での活用、わかば教室の不登校対応等の準備を整えることができた。</li> </ul>		
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員のクロームブックを活用した授業力の底上げ</li> <li>・クロームブックを自宅に持ち帰る際等のルールの作成</li> <li>・クロームブックが破損した際の修繕費用</li> <li>・5年後の更新時の費用</li> </ul>		

No.1-(4)	オリンピック・パラリンピック教育の推進	
主要な取り組み		事業経費
担当課	学校課	3,728,620円
事業の目的	東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を、子供たちの人生にとってまたとない重要な機会と捉え、共生社会の実現に必要となる「5つの資質（ボランティアマインド・障害者理解・スポーツ志向・日本人としての誇りと自覚・豊かな国際感覚）を育成する。	
事業の概要	<p>市立幼稚園4園、小学校17校、中学校8校の全校で、学習指導要領に示された各教科等の学習内容とオリンピックやパラリンピックを関連付けた活動を行った。また、東京2020大会以降も長く続けていく教育活動となるよう、各学校の特色を生かし、家庭や地域等と連携を図りながら活動を行った。</p> <p>5つの資質（ボランティアマインド・障害者理解・スポーツ志向・日本人としての誇りと自覚・豊かな国際感覚）の育成に関する各校の主な活動は以下のとおりである。</p> <p>①ボランティアマインド  豊田小…6年 総合的な学習の時間「Let's start できることから始めよう」  6年間の学びを生かし、地域に恩返しをすることや地域の一員となって活動することを目標に学習を行った。  令和元年度に地域の方々と一緒に復活させた小便小僧の広場が、1964年の東京オリンピックにできたことを知るとともに、オリンピック・パラリンピックの歴史や当時の地域の方々思い等について学んだ。また、小便小僧の広場の清掃活動の計画を立てた。  その他に、校舎の増改築に伴い伐採された校庭の桜の木が、地域とともに豊田小の歴史を見守ってきたことを知り、伐採された桜の木を生かした学習を提案した。伐採された桜の木を使って、コースターを作り、6年間の小学校生活を支えてくれた地域の方々に感謝の気持ちを伝えた。</p> <p>②障害者理解  旭が丘小…6年 総合的な学習の時間「オリンピック・パラリンピックについて知ろう」  ゴールボールの日本代表主将を講師に招聘し、子供たちは、オンラインで講演を聞いたり、ゴールボールの実技指導を受けたりした。講演の内容は、障害を乗り越えるまでの葛藤やその後の喜び、日本代表になるまでの努力、東京パラリンピックへの思いである。実技指導は、ボールの投げ方やディフェンスの仕方の練習、3人対3人のゲーム、アスリートへの挑戦である。事前学習では、ゴールボールの競技について調べ、また、3年生で学習した視覚障害者の生活について学んだことを振り返った。事後学習では、パラリンピックの種目や競技者の活躍や想いを調べた。学習を通して、障害者の方々との関わりについて考えを深めた。</p> <p>③スポーツ志向  平山小…全校 感染症対策を意識した取組  新型コロナウイルス感染症の影響により、子供たちが安心して体を動かす機会が失われていた。子供たちが運動をしたいという思いを受け、教員が、新型コロナウイルス感染症対策を意識し、密を避けながら、子供たちが安心して体を動かせる体育的活動を検討した。教員が、運動の場を設定し、子供たちが、遊び方や楽しみ方を考え、実施した。設定した運動の場は、ティーボールゾーン、シュートゾーン、ラダーゾーン、なわとびゾーン、たけうまゾーン、まとあてゾーン、はばとびゾーンである。これを「平山フレンドパーク」と名付け、全学年で実施した。</p>	
事業の成果・評価	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により計画通り実施することができなかったが、市立幼稚園4園、小学校17校、中学校8校の全校で、子供たちや地域の実態に応じて、工夫しながらオリンピック・パラリンピック教育を実施することができた。</p> <p>①ボランティアマインド  6年生の子供たちは、6年間、地域の方々に協力してもらいながら学習活動を行う中で、ボランティアマインドが育まれてきた。そのため、自分たちの成長を見守ってきた桜の木を活用することを提案し、地域の方々へ感謝の気持ちを伝えるなど、地域や誰かのために、自分たちに何ができるか考え行動にうつすことができた。</p> <p>②障害者理解  子供たちは、疑似体験を通して、想像以上に普段の動きをすることの難しさを感じた。そのため、障害者の方々とお話して、「相手のことを考えること」「声をかけること」の大切さを改めて実感することができた。</p> <p>③スポーツ志向  子供たちは、友達とルールを工夫して安心した環境で運動を楽しむことができた。運動や遊びを考える際、どのようなものが実施可能か、教員のみならず、子供たち同士が知恵を出し合いながら、内容やルールを工夫することができた。できないことではなくできることに注目する意識は、パラリンピックから学んだ「創意工夫」が生かされたと考える。</p>	
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリンピック・パラリンピック教育のプロセスの中で子供たちに刻まれたことを、次の世代にどのようにつなげていくかということ。</li> <li>・アスリートや有識者による特別授業を実施する際の予算をどのように確保していくかということ。</li> </ul>	

No.1-(5)	“いのち”のプロジェクト		
主要な取り組み		事業経費	582,340円
担当課	学校課		
事業の目的	<p>保護者（日野市立小中学校PTA協議会）・学校・日野市教育委員会からなるプロジェクトチームで、子どもと大人が“いのち”をテーマにした対話を通して、大人ができること、子どもと大人が共にできることを考え、よりよく生きる、よりよい地域社会をつくろうとする児童生徒の主体的で実践的な態度を育てるとともに、活動を通じて、より一層の意識の共有と連携を図る。</p>		
事業の概要	<p>コロナ禍で例年行っていた子どもたちと行っていた対話での取組が難しい状況であるため、プロジェクトメンバーで考え、今年度は、「子どもたちへメッセージ」を届け、家族、地域住民、先生などがどのような想いを伝え、いのちの大切さを考えて貰うこととした（定例会5回開催）。</p> <p>①メッセージ募集：令和2年12月下旬から令和3年1月末 227件応募</p> <p>②掲示メッセージ作成：令和3年2月 A3版用紙114枚（1枚2メッセージ）及びA1版説明文</p> <p>③掲示メッセージ掲示：令和3年3月～ 市内小中学校25校及びわかば教室（教育センター）</p> <p>④中学校3年生等感想文：令和3年3月～ 1,396件</p> <p>※学校、市HP公開、市役所1階及び5階で3月以降順次公開展示</p>		
事業の成果・評価	<p>・コロナ禍でもできることを考え、止めることなく取組が実施できた。</p> <p>・オンライン会議、Google Formでのメッセージ募集、デザイナーによるチラシ・掲示メッセージ作成など、新たなツール等を活用し効率的な運営ができた。</p> <p>・家族、地域、先生などからの子どもたちへ普段伝えられない本当の想い、そのメッセージを見た子どもたちの感想を可視化でき、互いに感じ、いのちについて考えることができた。</p> <p>・ひの社会教育センターとの取組もでき、今後の学校教育、社会教育、家庭教育での連携の可能性を感じた。</p>		
今後の課題	<p>・学校でのメッセージ展示もコロナ禍で限られた保護者（卒業生保護者）への公開となった。</p> <p>・このメッセージを街中に伝えるため、多摩平の森イオンモールで展示予定であったが、緊急事態宣言により延期となっている（解除後、展示予定）。</p> <p>・学校ホームページや市ホームページに掲載しているが、リアルな展示で大人からのメッセージ、子どもの感想を伝え、また、対話による想いの共有も図る。</p> <p>・無理しないスケジュールでプロジェクトメンバーが互いに連携した取組とする。</p>		



No.1-(6)	日野流「対話」プロジェクト		
主要な取り組み		事業経費	1,001,808円
担当課	学校課		
事業の目的	<p>第3次日野市学校教育基本構想では「学び合いと育ち合いを、子供、家庭、学校、地域みんなが対話をしながらつくりあげていく」ことが示された。日野市立小中学校PTA協議会、学校、教育委員会を構成する人が「第3次学校教育基本構想の基盤である対話を体験し、対話によって得られる価値を共有することで、第3次学校教育基本構想の実現を目指す。</p>		
事業の概要	<p>◆日野流対話プロジェクト プロジェクトメンバー 日野市立小中学校PTA協議会9名、学校長3名、教育委員会事務局6名 【研修 3回】※いずれもオンライン 5月 軽井沢風越学園でもファシリテーターとして活躍される古瀬正也氏を招き、「対話に生きるワークショップ」を2回開催。 1月 対話プロジェクトメンバーである保護者が講師となり「対話の日」を開催。 【会議 7回】 対話についての情報発信や、組織としての広がりにつなげることを検討するプラットフォームチームと研修やイベント等の企画を行うアクションチームの2つのチームに分かれ、「対話」を日野市全体に広める活動を行った。</p> <p>◆学校の取り組み 研究奨励校…滝合小学校・七生緑小学校・日野第一中学校 初任者研修に渋谷聡子氏（合同会社ファミリーコンパス代表）を招き、新任教諭の対話への理解度向上に努めた。</p>		
事業の成果・評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5月の研修では、令和元年度の講師と違う方を招いたことで、「対話」についてさまざまな手法があることを認識できた。</li> <li>・1月の研修では、プロジェクトメンバーが講師となったが、参加者からは5月の研修と同様に「対話」の可能性について感じる事ができた。また、プロジェクトメンバーの対話の理解度の向上と、対話プロジェクトをプラットフォームに市内に対話を広げる可能性を感じる事ができた。</li> <li>・オンラインでも「対話」を感じる事ができたことで、今後の事業展開の可能性を広げることができた。</li> <li>・初任者研修で対話を扱うことにより、初任者を通して対話の有効性を市内の小中学校に広める事ができた。</li> </ul>		
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対話プロジェクトのメンバー以外への「対話」についての情報提供、周知</li> <li>・研究奨励校以外への対話の周知</li> <li>・プロジェクトメンバーの卒業に伴う事業継承</li> </ul>		

No.1-(7)	個の状況にあわせた不登校児童・生徒への支援		
主要な取り組み		事業経費	294,000円
担当課	学校課		
事業の目的	<p>日野市に住む幼児・児童・生徒が自身の居場所を見付け、前に進んでいけるようにするために、不登校対策の充実を図る。</p>		
事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席状況調査により、各校の児童・生徒の不登校の状況と、一人一人に対する対応を明確にすることで、具体的な不登校対応の取組を推進する。</li> <li>・生活指導主任研修会の機会に、登校支援コーディネーター、わかば教室主任、スクールソーシャルワーカーも参加し、情報や課題の共有を行う。</li> <li>・不登校児童・生徒の家庭に対し、スクールソーシャルワーカー等をはじめとした関係機関による支援の体制を整備する。</li> <li>・教育委員会・学校・関係諸機関が情報を共有し、不登校児童・生徒及びその家庭が前に進めるようにするための連携を図る。</li> <li>・家庭訪問を活用し、家庭と学校とがより密接に連携できるようにする。特に臨時休校期間が、不登校や児童・生徒及び家庭と学校との関係が途切れるきっかけとならないように留意する。</li> </ul> <p>【学校別の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・三沢中学校にガンバルームを設置し、不登校生徒の登校支援並びに居場所づくりを行う。</li> </ul>		
事業の成果・評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席状況調査によって、不登校児童・生徒一人一人の状況について共有することができた。</li> <li>・継続して調査を行い、結果を積み重ねることで経年の変化を捉えることができた。</li> <li>・コーディネータ等を経由し、学校間や、学校と関係諸機関との連携が図りやすくなった。</li> <li>・臨時休校期間中には、担任が家庭訪問や電話連絡を行った。また、他地区に先駆けて分散登校を開始し、児童・生徒の居場所づくりに努めた。それら取組の効果もあり、7月までは不登校児童・生徒数が前年対比で減少した。</li> </ul> <p>【学校別の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一小、三小では、コロナウイルスへの感染の不安を理由に欠席している児童に向けて、授業のオンライン公開を行った。不登校対策として情報機器活用の有用性を見いだした。</li> <li>・三沢中学校では、不登校生徒がガンバルームでの活動を目的として登校するようになった。また、ガンバルームで自信をつけた生徒は、在籍学級の授業を見学したり、在籍学級に戻って授業を受けたりできるようになり、3名程度の生徒が通常通り登校できるようになった。</li> </ul>		
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・より地域との連携を図り、本人・家庭への支援の充実へとつなげるために、地域との連携をすすめていく。</li> <li>・「未然防止」の観点から、学校に一層の授業改善を働きかける。</li> <li>・不登校児童・生徒への支援を行う組織について、教職員の役割を明確にし、点検・改善に努めるように働きかける。</li> <li>・出席状況調査を活用し、「未然防止」「早期支援」「長期化への対応」の段階に応じた具体的な支援を促進していく。</li> <li>・クロムブックを活用した自宅学習についてのルール及びWi-fi環境整備等を進めていく。</li> <li>・各学校の取組を市立小・中学校に紹介し、学校や児童・生徒一人一人にあった支援体制を模索していく。</li> </ul>		

No.1-(8)	第5次日野市特別支援教育推進計画推進 ～ひとりひとりに必要なアプローチをすべての子に～		
主要な取り組み		事業経費	24,000円
担当課	発達・教育支援課		
事業の目的	<p>国や東京都の近年の動向や、特別支援教育を取り巻く状況の変化や課題を踏まえ、今後、日野市が特別支援教育の更なる充実に向けて取り組む施策を示した第5次日野市特別支援教育推進計画の進捗状況の点検及び評価を行い、事業の推進を図ることを目的とする。</p>		
事業の概要	<p>◆日野市特別支援教育推進委員会を開催し、特別支援教育推進計画の重点施策を中心に協議・意見交換を行う。</p> <p>【日野市特別支援教育推進委員会委員】※敬称略。所属は令和2年度。●が委員長。  ○小貫 悟（明星大学教授） ○山口早苗（第三小学校長） ●石川晴一（第二中学校長）  ○中村由美子（都立七生特別支援学校長） ○小宮広子（第二幼稚園長） ○熊澤 修（障害福祉課長）  ○谷川拓也（教育指導担当参事） ○正留久巳（教育センター所長）  ○宮崎芳子（特別支援教育総合コーディネーター） ○志村理恵（発達・教育支援センター長）</p>		
事業の成果・評価	<p>【特別支援教育推進委員会開催状況】</p> <p>第1回 令和2年5月25日 ※新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言中につき中止  第2回 令和2年9月28日 ◆〈協議・意見交換〉（第5次日野市特別支援教育推進計画）主要なテーマについて  ◆今後の特別支援学級並びに就学相談などの在り方等について  第3回 令和3年2月15日 ◆〈協議・意見交換〉第5次日野市特別支援教育推進計画の取組状況について（重点施策）</p> <p>【重点施策への意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「かしのきシート」は数としては安定しているが、記載内容の充実を図る必要がある。</li> <li>・特別支援教育の研修が少ない。転任の先生への研修も大事であるが、ひのスタンダードを続けていくためには管理職の意識向上が大事である。</li> <li>・特別支援教室の退室率を上げるためには在籍級の担任と支援級の意識、指導内容を上げる必要がある。ステップスタンダード、マニュアルなどは作った方がよい。</li> </ul>		
今後の課題	<p>◆第5次日野市特別支援教育推進計画について、かしのきシートの活用、「ひのスタンダード」の実践研究、リソースルームにおける指導力の向上、家庭や地域との連携など、重点施策を中心に目標に沿って進捗管理していく。</p> <p>◆小学校の自閉症・情緒障害学級（固定級）を令和4年度から実施の方向で示しているが、設置のうえでの課題などから、検討の時間が必要であると思われる。</p>		



No.1-(9)	学校における働き方改革の推進		
	主要事業		
担当課	学校課	事業経費	73,331,986円
事業の目的	<p>教員一人一人が心身の健康を保持し、誇りとやりがいをもって職務に従事できる環境を整えることにより、学校教育の質の向上を図ること。</p>		
事業の概要	<p>①働き方改革推進協議会の設置 平成30年度に設置。「日野市立小・中学校における働き方改革推進プラン」の推進を図るものとして、学校と教育委員会が現状と課題を共有し、必要な施策を推進していくためのもの。</p> <p>②教員の学習指導・副校長の学校経営業務の支援による負担軽減 平成30年度から開始。「スクール・サポート・スタッフ」、「副校長補佐」を配置。</p> <p>③部活動指導の充実と教員負担（管理顧問教員）の軽減 ・平成30年度から「部活動指導員」を配置。教員不在時における指導や専門指導者による生徒のニーズに応じた指導を展開。 ・令和元年度から「部活動プロジェクト」をスポーツ庁の委託事業として展開。従来の学校による部活動指導を地域の運営によるクラブ活動に発展・継承（「地域部活動」）し、教員負担の軽減と指導の充実を図る持続的な仕組みづくりを研究。</p> <p>④定期試験における採点事務の負担軽減 令和2年度に「デジタル採点システム」を導入。一定期間に集中する採点事務の負担軽減と個別データの集積による個に応じた指導を可能とした。（令和元年度は試験導入としていた）</p> <p>⑤出退勤システムの導入 令和元年度から開始。在校時間（時間外勤務の実態）の把握と教員自身の意識改革につなげるもの。</p>		
事業の成果・評価	<p>①「スクール・サポート・スタッフ」の配置 小・中学校の全校（小17校・中8校）に各1名を配置（うち、大規模校である豊田小・日野一中、日野四中、三沢中、大坂上中の各校はプラス1名） 主な業務は、配布物の印刷、教材の作成や採点の補助等に加え、新型コロナウイルス対応（消毒作業）。</p> <p>②「副校長補佐」の配置 日野六小、平山中に各1名（計2名）配置。 主な業務は、副校長における学校経営の補佐（各種調査回答の作成やサービス・施設管理の補助等）。</p> <p>③「部活動プロジェクト」の展開・「部活動指導員」の配置 日野二中の陸上部（コニカミノルタ陸上部員）、三沢中の女子バスケットボール部（BJアカデミー指導員）において、地元企業と連携した部活動支援を展開し、教員負担の軽減と個に応じた質の高い指導を実現。（指導者は、練習の前に、練習の目的を生徒に説明し、生徒に目的意識を明確に持たせている。それにより、各々の生徒が、自分のゴールに向けてどう練習していけばよいのかを考えるようになり、部活動に対し主体的に取り組むようになった） 「部活動指導員」は中学校全校に、ニーズに応じた種目で計25名を配置。地域人材を活用。</p> <p>④「デジタル採点システム」の導入 中学校全校に導入。令和元年度の試用期間における実績では、採点に要する時間が最大40%削減した。</p> <p>⑤「出退勤システム」の導入 負担軽減策の客観的評価を図る手段の一つとして、今後の施策展開に活用する。 令和元年度と令和2年度の比較においては、新型コロナウイルスによる臨時休校があるため、通年の比較が困難である。そのなかで、「副校長補佐」配置の2校における効果は次のとおり。非配置の23校では、いわゆる過労死ラインとされる月80時間以上の時間外勤務がほぼ毎月生じているのに対し、配置校では月45時間以内にとどまっており、配置の効果とみることができる。</p>		
今後の課題	<p>①教員負担軽減を図る体制を継続するための人員と財源の確保 「スクール・サポート・スタッフ」、「副校長補佐」、「部活動指導員」は、いずれも国・都による全額または一部の負担により、その経費が賄われている。 現状において、教員の人数に対し、配置している人数では充足しているとはいえない。さらなる人員増と同時に財源についても確保を図っていかねばならない。</p> <p>②「地域部活動」への移行に向けた保護者の理解と持続可能な仕組みづくりの構築 令和2年度は、スポーツ庁の委託事業として財源が確保されており、専門の指導者による指導も無償で受けることができる（令和3年度も同様の予定）。 今後、地域部活動に移行した際には、その運営経費は参加生徒の保護者からの月謝や、地元企業からの寄付・広告収入等を充てることとなる。保護者・地域の理解をどう進めていくべきか、大きな課題である。</p> <p>③教員の持ち時間数の削減 教員が加配され、教員一人あたりの持ち時間数の削減が実現すれば、子どもと向き合う時間が確保でき、より質の高い教育活動が展開できる。教員の加配については、国・都に引き続き働きかけていく。</p>		

No.1-(10)	屋内体育館空調設置事業(中学校)・学校トイレ改修(小中学校)		
主要事業		事業経費	323,857,582円
担当課	庶務課		
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏季の酷暑時における児童・生徒の熱中症対策として、屋内運動場へエアコンを設置し、学習環境の向上を図る。</li> <li>・校舎や屋内運動場等のトイレの改修を計画的に実施することにより、質の高い学校施設環境を整え、児童・生徒に安全・安心な教育環境の整備・充実を図る。</li> </ul>		
事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・酷暑時における体育や集会時の熱中症対策として、令和2・3年度において、中学校全校の体育館へエアコンを設置する。また、空調効率を高めるため、屋根の断熱工事を併せて行い、環境負荷の低減を図る。</li> <li>・老朽化した小中学校のトイレを、ドライ方式(床仕上)、配管の取替、男子小便器(人感センサー式)、洋式便器(節水型)、照明(人感センサー式LED)など、衛生的で省エネ(節水・節電)に配慮したトイレへ改修する。</li> <li>・老朽化した小中学校のトイレで、数年以内に改修予定がない学校のうち、系統ごとに利用困難な和式便器を洋式化し、衛生的なトイレ環境へ改善する。</li> </ul>		
事業の成果・評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日野第二中、七生中、日野第三中、大坂上中の4校で、体育館へエアコンの設置を行い、酷暑時における安全な教育環境を整備することができた。</li> <li>・潤徳小学校と七生中学校の2校で、トイレの全面改修を実施。潤徳小では校舎1系統にて、七生中では校舎1系統、特別支援棟、食堂及び体育館にて、配管の更新、床のドライ化、大便器の洋式化、LEDの導入など全面改修することで、衛生的で安全に安心して児童・生徒が利用しやすい環境を整備することができた。</li> <li>・旭が丘小学校で、部分改修を実施。校舎1系統にて便器の洋式化をすることで、衛生的で安全に安心して児童・生徒が利用しやすい環境を整備することができた。</li> <li>・令和2年度をもって、おおよそ80%の系統(校舎)で、トイレ改修を終えることができた。</li> <li>・災害発生時の避難所として、体育館への空調整備やトイレ改修を実施することで、避難所環境の向上を図ることが出来た。</li> </ul>		
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育館のエアコンについては、中学校の効果などを踏まえながら、小学校への設置に関し引き続き検討を行う。</li> <li>・トイレ改修については、令和2年度をもって、おおよそ80%の系統(校舎)でトイレ改修を終えることができたが、未改修系統をもつ学校では早急な改修を切望する声がさらに高まっている。施設の老朽化がさらに進み「臭い・汚い・暗い・漏水」などの問題も拡大している。諸問題の抜本的な解消にはこれまでどおり全面改修が必要ではあるが、トイレの全面改修には多大な事業費がかかることから、今いる児童・生徒の利用環境の改善を図るため、引き続き、簡易な改修や清掃など運用面も含めた方策もあわせた検討を行っていく。</li> <li>・今後は、校舎だけではなく、体育館や屋外のトイレについて、防災面や校庭利用なども考慮し、環境改善の検討を行う。</li> <li>・また、トイレ改修時に整備した和式便器の洋式化など、洋式率の向上について検討を行う。</li> </ul>		

No.1-(11)	校舎増改築事業(豊田小)		
	主要事業		
担当課	庶務課	事業経費	365,436,200円
事業の目的	校舎の増改築を計画的に実施することにより、質の高い学校施設環境を整え、児童・生徒に安全・安心な教育環境の整備・充実を図る。		
事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊田小学校の児童数の増加に対応するため、既存東校舎を解体する。(令和2年度)</li> <li>・新東校舎は、普通教室、特別教室、給食室、地域交流室等を配置し、既存校舎面積の10倍程度へ増築する。(令和2～3年度)</li> <li>・新東校舎へ、学童クラブを併設する。(令和2～3年度)</li> <li>・新東校舎の建設に先立ち、グラウンドを拡張整備する。(令和2年度)</li> </ul>		
事業の成果・評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊田小学校東校舎建替えに向け、実施設計に基づき既存東校舎の解体及び新東校舎の建築工事に着手した。令和3年3月現在、既存東校舎の解体が完了、新校舎の基礎工事を実施しており予定どおり進んでいる。</li> <li>・また、改築工事に先立ち実施したグラウンドの拡張整備が完了し、12月より運用を開始できた。</li> <li>・工事エリアの拡大に伴うグラウンドの減少による学校運営への影響や、工事車両の通行と登下校時における児童・生徒の安全面に配慮し、関係部署と調整しながら事業を進めている。</li> </ul>		
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊田小学校の児童増に伴う教室不足という事態を招かないよう、適正な時期までに新東校舎を完成させなければならない。</li> <li>・また、改築後の計画として校舎と体育館の大規模改造工事があり、おおよそ6年間の長期間に及ぶ計画のため、児童や学校職員の負担を少しでも軽減できるように教育委員会全体で様々なケアが必要である。</li> <li>・さらに工事の範囲が年毎に異なることから、児童の動線が複数回にかけて変更せざるをえなく安全面の十分な配慮が必要である。</li> <li>・新たな東校舎の建設工事による、工事車両の出入りなど、近隣住民に対し十分な配慮が必要である。</li> </ul>		

No.2-(1)	国登録有形文化財「桑ハウス」の周知・啓発		
視点	1 学ぶ	事業経費	3,265,000円
施策の柱	いつでも どこでも 誰でも学べる環境整備		
担当課	ふるさと文化財課(生涯学習課文化財係)		
事業の目的	旧農林省蚕糸試験場日野桑園第一蚕室(通称「桑ハウス」。以下「第一蚕室」と記す)の保存修復工事(令和2年度終了)に伴い、第一蚕室の文化財としての価値の周知・啓発をはかり、同施設への理解を高め、適切な活用を促す。		
事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第一蚕室の歴史の変遷や文化財的位置付けを明らかにするための調査の実施。</li> <li>・保存修復工事に関する報告書等の記録作成。</li> <li>・第一蚕室を理解するための講演会、学習会等の実施(未実施)。</li> </ul>		
事業の成果・評価	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関係者への聞き取り調査、資料調査、関連施設への視察などを行い、第一蚕室の設立の経緯や事業内容、施設の変遷などを解明することができた。</li> <li>・第一蚕室の概要と保存修理の過程をまとめた「旧農林省蚕糸試験場日野桑園第一蚕室保存修理報告書」を刊行した。</li> <li>・第一蚕室の保存修理過程を記録した映像(DVD)を作成した。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響により、予定していた講演会、学習会は実施できなかった。</li> </ul> <p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種調査や視察により第一蚕室の設立の経緯や事業内容、施設の特徴などを、日野市の地域性や、養蚕技術史、社会経済史などと関連付けて明らかにしたことは、第一蚕室を日野市の文化財として保存することの意義をより明確にするものであり、市民の郷土理解の一助となるものと言える。</li> <li>・保存修理の過程を克明に記録した報告書やDVDは、第一蚕室を今後文化財として保存していくうえでの基礎的で重要な資料と言える。</li> </ul>		
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第一蚕室の歴史的・文化的意義や建造物としての価値をより多くの市民に理解していただくため、保存修理報告書を読み易い形に編み直したブックレット等の刊行が求められる。</li> <li>・第一蚕室は日野市の地域特性や日本の養蚕史を理解するうえで欠くことのできない遺構であり、特に養蚕技術史や社会経済史などの観点から、調査・研究をより深化させる必要がある。</li> <li>・第一蚕室を今後活用するに際しては、文化財としての価値を損うことがないように、関係機関等と十分な調整をはかる必要がある。</li> </ul>		

No.2-(2)	第2次公民館基本構想・基本計画(令和2年度～令和6年度)の推進		
視点	1 学ぶ	事業経費	1,234,750円
施策の柱	いつでも どこでも 誰でも学べる環境整備		
担当課	中央公民館		
事業の目的	<p>「第2次公民館基本構想・基本計画(以下、第2次計画)」を推進することで、市民の暮らしに寄り添いながら、市民のつながりの中に学びを生みだし、より豊かな暮らしを行うことができる学習環境づくりを促進していく。</p>		
事業の概要	<p>・第2次計画は「市民の暮らしに寄り添いながら、市民のつながりの中に学びを生み出す」を理念として掲げ、令和2年度から令和6年度の5年間、第2次計画を実践していく。  ・令和2年度はその初年度に当たるが、未曾有の「新型コロナウイルス感染症」対応に追われることになった。しかし、公民館のWi-Fi設備の整備を実施して、市民の「学びの保障」を確保することができた。これからのアフターコロナの時代に対面式とオンライン活用の双方を学びの標準とする「新しい公民館」を目指していく。  ・第2次計画では、学び合いによる市民のつながりの促進・情報発信強化・地域の社会的資源による学びの充実などを基本目標として、アウトリーチ事業の柔軟な展開、大学との連携強化、談話室・空き室を活用した様々な世代の居場所づくりの展開等に注力した。  ・公民館事業の進展は、日野市公民館運営審議会へ定期報告し、公民館活動向上へのアドバイスをいただきながら、効果的に実行していく。</p>		
事業の成果・評価	<p><b>【第2次計画の特徴的な事業】</b>  <b>1 アウトリーチ事業の展開</b>  公民館ではアウトリーチ事業を柔軟に展開し、地域の社会的資源を「学び」に活用することで、市民の学習意欲を刺激し、学び、つながりあえる場づくりを実施することができた(大坂上中地区、二中地区はコロナ禍のため延期)。  (1) 蚕でつなぐプロジェクト(一中地区)  (2) ほしぞら映画会(三中地区)  (3) マリンバと世界の民族楽器in東京光の家(四中地区)  (4) まち歩き「地域の歴史を知ろう」(平山中地区)  (5) 防災講座(七生中地区)  (6) 星空ツアーに出かけよう!(三沢中地区)  <b>2 大学連携の強化</b>  市内の大学に協力していただき、「ひの市民大学連携コース」では充実したプログラムをオンライン配信により市民に提供することができた。また、各大学のゼミと協働して、学生と市民が交流しながら実施する事業豪を行うことができた。  (1) 実践女子大学 ①ひの市民大学連携コース「食と微生物」「人生にもう遅いはない」 ②須賀ゼミ「多世代交流カルタ」会  (2) 明星大学 ひの市民大学連携コース「エコの技術」  (3) 帝京大学 丹間ゼミ冊子「ただいま!また会える場所で」制作  <b>3 談話室・空き室を活用した様々な世代の居場所づくり</b>  市民と協働して、公共施設としての公民館を活用した子どもたちの居場所づくりに乗り出すことができた。  (1) 「談話室居場所こむこむ」市民協働による子どもの居場所運営  (2) 「勉強ルームin公民館」夜間の貸室空き部屋を地域の子どもたちの勉強ルームとして開放  <b>4 オンラインを活用した主な事業</b>  (1) 第33回公民館まつりwithコロナ  ①サークルのPR動画制作 30団体参加 ※日野市ホームページで配信予定  ②音楽サークルのオンラインライブ 7団体参加  ③大学連携シンポジウム  パネラー:帝京大学教育部非常勤講師・千葉大学教育学部准教授 丹間康仁氏  パネラー:実践女子大学生活科学部教授 須賀由紀子氏  (2) 公民館平和事業(協力:星槎国際高等学校)  ①戦争体験体験談の動画8名分を制作 ※日野市ホームページで配信予定  ②朗読サークルによる公民館平和冊子「一枚のはがき」朗読動画10名分制作 ※日野市ホームページで配信予定  ③合唱サークルによる「平和への祈り」動画の制作 ※日野市ホームページで配信予定  (3) 郷土教育推進のための動画制作事業(協働:郷土教育推進研究委員会)  ①「オリンピックレガシー」②「縄文時代の住居」③「新選組のふるさと」※教育委員会C4thに配信済み</p>		
今後の課題	<p>・第2次計画推進が実現していることを、日野市公民館運営審議会に定期的に報告することで確認してもらいながら、推進へのアドバイスをいただき、効果的に実行していく。  ・アウトリーチ事業を市内全域に柔軟に展開していくことで、市民ニーズ・地域課題を掴み、学びによる課題解決の仕掛けを構築していく。  ・対面式とオンライン活用の学びの形式を標準化させ、さらに発展させていく。</p>		

No.2-(3)	地域・行政資料のデジタル化		
視点	1 学ぶ	事業経費	4,174,720円
施策の柱	いつでも どこでも 誰でも学べる環境整備		
担当課	図書館		
事業の目的	<p>日野市のあゆみを伝える貴重な地域・行政資料。その柱の一つである日野市刊行物のうち、特に昭和期の資料は紙の劣化が進んでおり、複本数も少ない。デジタル化して公開することで、資料の永久保存と利用者の利便性向上を目指す。</p>		
事業の概要	<p>昭和期に日野市（日野町・七生村を含む）が刊行した自治体史、総合計画書、予算書、決算書、市勢要覧、市議会会議録、観光パンフレット等をデジタル化し、図書館ホームページで広く公開する。</p>		
事業の成果・評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公益財団法人図書館振興財団の2020年度振興助成事業助成金を獲得し、事業経費として活用した。</li> <li>・令和2年6月に着手し、令和3年2月26日、529点の資料（120,569頁）のスキニング作業を完了した。</li> <li>・令和3年3月30日、図書館ホームページ（<a href="https://www.lib.city.hino.lg.jp">https://www.lib.city.hino.lg.jp</a>）に「地域・行政デジタル資料」を掲載した。</li> <li>・公開が可能な資料を歴史、地方行政、財政、議会、産業、福祉、教育、文化行政、都市問題、自然の10のジャンルに分け、422点を掲載した。</li> </ul> <p>◆主な掲載資料  日野町郷土記、七生村誌、日野市政白書、基本構想、市勢要覧、予算書、決算書、主要な施策の成果、決算審査意見書、情報公開制度に関する報告書、市税のあゆみ、市税概要、固定資産概要調書、町名地番変更対照表、市議会会議録、市議会だより、ひのしのこくほ、学校教育要覧、図書館業務報告、水道のあゆみ、日野市の下水道、土地区画整理事業しゅん功記念誌、日野市営住宅白書、緑のマスタープラン報告書、観光パンフレット等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で外出を控えなければならない状況下でも、デジタル化し公開したことにより、来館しなくても全国どこにいてもいつでも閲覧できる「非来館型サービス」として、利便性が大きく向上した。</li> <li>・特に劣化が著しい昭和20年代から30年代の市刊行物は、原本を保存スペースに移管し、デジタル化資料を利用してもらうこととしたため、資料保存と利用を両立できるようになった。移管により書架に余裕ができたことで、資料を探しやすくなった。</li> </ul>		
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人情報に掲載されている資料のマスキング作業、著者や史料所有者にデジタル化の許諾を得る作業を進めて、公開資料数を増やす。</li> <li>・平成期前半の日野市刊行物のデジタル化を進める。</li> <li>・市内で活動する郷土史研究団体や自然保護団体の著作物についても、デジタル化し図書館ホームページでの公開に向けて、各団体と協議を進める</li> </ul>		

No.2-(4)	文化財の収集保管方法等の構築及び活用できる資料としての整備		
視点	1 学ぶ	事業経費	1,660,000円
施策の柱	いつでも どこでも 誰でも学べる環境整備		
担当課	ふるさと文化財課(郷土資料館)		
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 収集資料の保管場所と、展示スペースの確保。</li> <li>・ 資料情報の共有化と公開を目的とした収藏品管理システムの構築に向けた、資料管理体制の確立。</li> </ul>		
事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歴史資料(古文書)のデジタルデータ化。</li> <li>・ 民俗資料の保存状況確認と台帳整理。</li> <li>・ 収集展示室等、展示スペースの見直し。</li> </ul>		
事業の成果・評価	<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 古文書の16mmマイクロフィルム24巻36,563コマをデジタルデータ化し、収藏品管理システムとの連動が可能な形式に整理することができた。</li> <li>・ 郷土資料館収集展示室の配置換えを行い、併せて資料整理を行い廊下部分に展示可能なスペースを創出した。</li> <li>・ 民俗資料の写真撮影、保存状況確認、および台帳との突合を行うとともに、資料の体系的な分類に基づく収集方法に改めた。</li> <li>・ 異聖歌の資料室を設け、資料閲覧の要望に即座に対応できる体制を整えた。</li> </ul> <p>※いずれの作業も令和3年度以降継続して実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ これまでの収集展示室等の配置を見直し、新たな展示スペースを確保するなど郷土資料館の機能を高めたことに大きな意義があった。</li> <li>◆ 資料の現状確認やデジタルデータとしての整理など、「収藏品管理システム」の構築に向けた準備を進めることができた。</li> </ul>		
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上記の業務を通して資料管理上の課題を明らかにし、収藏品管理システムに反映させることが必要。</li> <li>・ 今後も増え続ける資料に対応するため、収蔵場所の確保だけでなく、既存資料の処分も視野に入れた検討が求められる。</li> </ul>		

No.2-(5)	事業展開における情報ツールを見直し、公民館未利用者へアプローチを図る (SNS 情報誌など)		
視点	1 学ぶ	事業経費	652,000円
施策の柱	学びに関する様々な情報提供・相談機能の充実		
担当課	中央公民館		
事業の目的	<p>ツイッターや「公民館だより」等の公民館事業の情報発信するメディアツールを見直し、より効果的な運用方法を検討し、公民館を利用していない市民の学習ニーズをつかみ、効果的な情報発信を行う方法を開発することで、幅広い世代の市民が公民館事業情報をあらゆる方法で獲得でき、自らの学習へ効果的に活用できるための環境を創り上げる。</p>		
事業の概要	<p>公民館が事業情報の発信に使用している各メディア、ホームページ、ツイッター（SNS）、公民館だより（冊子）の運用方法の見直しを行い、また、日野市公式LINE等のSNSの効果的な活用方法を開発することで、より効果的な公民館の事業情報を情報発信できる方法を実施していく。そして、令和2年度は、新たな社会課題となった「新型コロナウイルス感染症」に急遽対応し、Wi-Fi設備の整備を行うことで市民の「学びの保障」を実現し、併せて、生涯学習支援の課題であった遠隔学習を提供できる環境を構築した。以上により、様々なメディアを活用して市民の学習ニーズを探り、学習情報を効果的に届けることで、市民の生涯学習支援の充実を図った。</p>		
事業の成果・評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館ホームページは、民間事業者に運営委託を行っていたが、間接的に情報を更新しなければならないため、近年の異常気象やコロナ禍に対してスピード感も持って対応することができなかった。そこで、公民館運営情報を日野市ホームページに移植し、職員がホームページを直接更新できるようにして、緊急情報も発信することができるようになった。</li> <li>・公民館だより（冊子）の運用方法の見直しを行い、ツイッター・日野市公式LINE等のSNSの効果的な活用するため、情報発信強化チームを作り、公民館の事業情報を効果的に情報発信できるように定期的に検討していく。</li> <li>・令和2年度は、新たな社会課題となった「新型コロナウイルス感染症」に急遽対応するため「地方創生臨時交付金」を活用して、Wi-Fi設備の整備を行った。このことでコロナ禍での市民の「学びの保障」を実現し、併せて、生涯学習支援の課題であった遠隔学習を提供できることとなった。以上により「第2次公民館基本構想・基本計画」策定時には想定していなかった緊急事態に対応しながら、様々なメディアを活用して市民の学習ニーズを探り、学習情報を届けることで、市民の生涯学習支援の充実を図ることができた。</li> </ul>		
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍におけるオンライン講座等の新たな情報発信の効果的な方法を探り、市民の学習意欲を促進させていく。</li> <li>・公民館事業の情報発信メディアにより効果的に情報発信し、未利用者開発に貢献できるように情報発信強化チームを作り、定期的な検討・実施を行っていく。</li> <li>・市民ニーズ・地域課題を効果的に掘み、公民館事業に反映させて課題解決する仕掛けを構築していく。</li> </ul>		



No.2-(6)	図書館利用に障害のある方への様々な図書館サービスの周知・提供		
視点	1 学ぶ	事業経費	2,631,226円
施策の柱	学びに関する様々な情報提供・相談機能の充実		
担当課	図書館		
事業の目的	<p>障害の有無に関わらず、すべての人が読書できる環境を整備していくという「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律（読書バリアフリー法）」の理念の実現に向け、通常の印刷文字での情報入手が困難な方や、図書館への来館が困難な方などの情報入手を支援する。</p>		
事業の概要	<p>通常の印刷文字での情報入手が困難な方や、図書館への来館が困難な方などに対し、情報提供や情報入手サポートを行う事業。主な実施内容は①音訳・点訳資料の作成・貸出②音訳・点訳者の養成③対面朗読④資料宅配サービス⑤読書機器の使い方指導。 これらのサービスを図書館が行っていることを広く周知し、必要とする人に提供する。</p>		
事業の成果・評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 障害者サービス利用案内を放課後デイサービスや高齢者サービス事業所約50か所に発送、5事業所からの希望を受けマルチメディアディジー、活字図書の出借を行った。</li> <li>・ 眼科医院1か所に障害者サービス利用案内を置かせてもらい、院長先生より他でも何かあれば協力しますとの言葉をいただいた。</li> <li>・ 児童用障害者サービス利用案内を作成し、点字授業に訪問した小学校にて紹介できた。</li> <li>・ 児童向けに「障害を知る本」の展示を9月から12月まで中央図書館で実施し、図書館ホームページ等でPRした。チラシをご覧になった八王子東特別支援学校の保護者の方と繋がることが出来た。</li> <li>・ 音訳者の状況に合った講義内容で、11月に講習会を3回実施した（会場は多摩平の森ふれあい館交流センター集会室）。新型コロナウイルス感染症対策で36名の音訳者の内14名の受講となった。</li> <li>・ 2月15日に図書館職員を対象に、ひの手話サークルの方を講師として、図書館で使える手話講座を行った（受講者19名）。</li> </ul>		
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 様々な機会でもPRを行ったが、利用登録が横ばいである。また、PR先の方から「初めてこのようなサービスを知った」という声があり、継続したPRが必要である。</li> <li>・ 市の福祉関係部署との協力体制を整え、本当に必要な人に必要な情報が届いているか、ニーズを把握しサービスに繋げる取り組みが必要である。</li> <li>・ 読書を補助する機器やアプリなどの情報技術も進歩しているが、それらを活用するための環境が整っていない。今後は技術の進歩や利用者ニーズに合わせ、様々な媒体によって情報提供を行うための体制強化を図る必要がある。</li> </ul>		

No.2-(7)	特別展「みんなのひの宝モノ語り展」の開催		
視点	1 学ぶ	事業経費	1,570,000円
施策の柱	学びに関する様々な情報提供・相談機能の充実		
担当課	ふるさと文化財課(郷土資料館)		
事業の目的	<p>民俗資料を使用者・所蔵者の記憶や記録を通して展示することにより、概ね昭和30年代までの日野市域における日常生活の在り方を示し、市民の郷土史への理解を促す。</p>		
事業の概要	<p>・新選組のふるさと歴史館（第一会場）と郷土資料館（第二会場）にて開催。  ・第一会場会期：令和2年 9月12日～11月29日  ・第二会場会期：令和2年10月 3日～令和3年3月28日  ・関連行事としてシンポジウムを1回開催した。</p>		
事業の成果・評価	<p><b>【成果】</b>  ・来館者数：3,331人（第一会場2,765人、第二会場566人）  ・ミニシンポジウム（収録）「多摩地域におけるサイノカミ・どんど焼き行事」：令和3年10月17日実施、5名参加。</p> <p><b>【評価】</b>  ◆所蔵者・使用者の暮らしの道具に対する「想い」を切り口に民俗資料を展示したことにより、人と道具の「物語り」を紡ぎ出し、日野市域における暮らしの様子を実感的に示すことができた。  ◆市民参画によるサイノカミ行事の悉皆調査の結果を示し、市域における民俗行事の継承・再生の諸相を示すことができた。  ◆家庭に眠っていた「モノ」が調査・研究を経て「民俗資料」となる過程を示したことにより、博物館業務の一端を市民に理解していただくことができた。  ◆感染症対策による行動制限のため、講演会や体験学習会などの関連行事を見送らざるを得なかったが、ミニシンポジウムを収録してネット公開したことにより、新たな情報発信の手法を試みることができた。</p>		
今後の課題	<p>・本特別展は当初、市内各所での出張展示を通して民俗の地域ごとの差異を明らかにしたうえで開催する計画であった。新型コロナウイルスの影響によりこの計画は実現に至らなかったが、市内各地域の個別の特性を明らかにしようとする試みは日野市の歴史・文化を明らかにするうえで効果的であり、今後条件が整い次第実現させたい。  ・民俗資料の使用者に聞き取り調査を行うことができるのは、恐らく今が最後の機会であり、喫緊の課題として取り組む必要がある。</p>		

No.2-(8)	「成人式見直しプロジェクト」(仮)の準備		
視点	2 つながる	事業経費	0円
施策の柱	教え合う 交流する仕組み・居場所づくり		
担当課	生涯学習課		
事業の目的	行政主導の「式典」から、当事者が望む成人式に変えていく		
事業の概要	<p>庁内関係部署による検討会議を設置し、18歳成年と従来の成人式の関係、成人式の式典・イベントとしての方向性を検討。</p> <p>当事者（新成人・これからの成人・成人式経験者）による実行委員会（組織）の形成を目標。</p>		
事業の成果・評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大への対応のため、調整会議の発足、検討等は未実施。</li> <li>・令和3年成人式は、コロナ禍により参集開催を中止し、オンライン配信で実施。この経験から、行政主導の「成人式」と当事者「成人式＝再開の場」思いの乖離が明確になった。</li> <li>・参集開催中止後に、イベント「私たちの成人式」と題して、写真を募集し3月に実施。募集に際して集まれなかった成人式の代替イベントに参画する人材を募集したが、応募者がいない状況であった。</li> <li>・成人代表者からは、「中学校区ごとに集まる場があると良い」「大学卒業時に自主的にできるか考えている」「区切りがついたので、市全体で集まることはしなくても良い」「市からのきっかけがあるとやりやすい」「自分たちで計画できると思うけど、市の力を借りてイベントができればと思う」「同窓会があったら行きたい」「すでに同窓会が決まっているとしたら、市が行う成人式に集まるかは疑問」、いろいろな思いが寄せられた。</li> <li>・令和4年4月より、改正民法により成人が18歳に規定されるが、令和5年以降も「20歳」での成人式を決定。18歳成人となるため、早い段階で、名称を含めた式典内容の見直しが必要となる。</li> <li>・コロナ禍における、新しい生活様式と成人年齢の変更を見据えて、令和4年成人式から変更を始める。</li> </ul>		
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成人年齢改正後の令和5年成人式（20歳を対象）の実施内容の決定及び関係者への同意。</li> <li>・当事者による実行委員会（人材）の発足と継続。</li> <li>・実行委員会による成人式内容の見直し。</li> </ul>		

# 資料

## 日野市教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検及び評価実施要綱

平成20年11月10日

教育委員会決定

改正 平成27年 4月 1日

### (目的)

第1条 この要綱は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条第1項及び第2項に規定する、教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の実施に関し、必要な事項を定めるものとする。

### (点検及び評価の対象)

第2条 日野市教育委員会（以下「教育委員会」という。）は、毎年1回、主要な事務の管理及び事業の執行状況について、点検及び評価を行う。

### (学識経験者の委嘱)

第3条 教育委員会は、点検及び評価を行うに当たり、その客観性を確保するために、教育に関し学識経験を有する者の意見を求めるものとする。

2 学識経験者は、学校教育及び生涯学習に関して識見を有する者2名をもって充てる。

3 学識経験者は、教育委員会が委嘱する。

4 学識経験者には、予算の範囲内で謝礼を支払う。

### (日野市議会への報告書の提出)

第4条 教育委員会は、点検及び評価に関する報告書を毎年度作成し、市議会に提出する。

### (評価結果の公表)

第5条 教育委員会は、点検及び評価の結果を市民に公表する。

### (評価結果の活用)

第6条 教育委員会は、効果的で、市民に信頼される教育行政を推進するために、点検及び評価の結果を活用する。

### (庶務)

第7条 点検及び評価に関する庶務は、教育部庶務課において処理する。

### (委任)

第8条 この要綱に定めるもののほか、この要綱の施行に関し必要な事項は、教育長が別に定める。

### 付 則

この要綱は、平成20年11月10日から施行する。

### 付 則

この要綱は、平成27年 4月 1日から施行する。

# 学びと育ちの日野ビジョン(日野市総合教育大綱)

平成 20 年 6 月に制定した『日野市子ども条例』の前文は、「いつの時代にも子どもは社会の宝であり～未来への希望です」で始まり、「おとなは、子どもの力を信頼し、ともに社会をつくっていきます」としています。日野市は、子どもが健やかに育ち、学び、やがて地域を支えることのできる環境を全力でつくっていかうと考えます。

そのために日野市総合教育会議での議論をもとに、「学びと育ちの日野ビジョン(日野市総合教育大綱)」を策定しました。このビジョンのもとで教育と福祉の連携をさらに強化し、『第二次日野市学校教育基本構想』、『日野市生涯学習基本構想』、『新！ひのっ子すくすくプラン』を、地域の人々と共に総合的に推進します。

## ビジョンテーマ

「ひのっ子を包み込む学びと育ちの環境が 地域から世界へ羽ばたく日野人を育む」

### 1. 「人・もの・こと」とのかかわりの中で 自ら学び 未来を拓く ひのっ子を育てます

- ◇「人・もの・こと」とのかかわりの中で磨かれる よりよきものへの思いと学びが 明るい未来をひらきます
- ◇自ら学び 考え 行動する力を育み 新たな価値を創ります

### 2. 「虐待」「いじめ」「貧困」から 子どもの育ちを守り 支えます

- ◇「一人で悩ませない 人を苦しめない」このみな願いを みな力で実現します
- ◇自信と元気を身につけた子どもが育つよう 地域社会で子どもを包み込み 見守ります
- ◇学校を核として 虐待・いじめに 正面から向き合い 覚悟をもって 子どもを守ります

### 3. 郷土(ふるさと)を愛する日野人として成長し 地域を創り上げるつながりをつくります

- ◇自然環境資源 歴史や郷土文化資源 地域団体等の社会資源を有効活用し 郷土愛を育みます
- ◇郷土愛をもった子どもたちが成長し 新たな地域を創り上げていく 日野人としての成長を支えます

### 4. 芸術文化の本物に触れ 本物を自ら創る文化を高めていきます

- ◇芸術文化活動を行う環境整備を進め 本物に触れる体験・主体的な活動を充実します
- ◇表現するよろこび 創造するよろこびに まちが響きあいます

### 5. スポーツを「する」「観る」「支える」ひのっ子・日野人を増やします

- ◇2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催をきっかけとし 子どもや若者が持つ エネルギーを余すことなく発揮できる環境 多様なスポーツに関わる機会を充実します
- ◇体を動かす心地よさ スポーツする楽しさに 心が動き笑顔があふれます

### 6. 家族の中で豊かな個性が育ちます 子どもを育てる家族を応援します

- ◇子どもは家族の中で成長し 家族のつながりを学びます 子どもを育てる家族を応援します
- ◇多様な家庭の文化を尊重し 自分の育った家庭環境を誇りに思える地域社会をめざします

平成 28 年 2 月 24 日

日野市長 大坪 冬彦

令和3年度 教育委員会の事務の管理及び執行状況の  
点検及び評価報告書（令和2年度事業）

令和3年9月発行

発行 日野市教育委員会

編集 日野市教育委員会教育部庶務課

東京都日野市神明一丁目12番地の1

電話 042-514-8692(直通)